

## はじめに

「どんな本を子どもたちに読ませたらよいですか。」と図書館に来館される保護者の方からたずねられることがよくあります。

現在、1年間に約2,000冊程度の児童向けの本が出版されているとききます。たくさんの中からは、子どもたちのために、その年齢や発達、好みなどに応じた本を選ぶのは、なかなか難しいことでもあります。

一方、本を読んで、子どもたちが楽しみ、共感したり、時には驚いたり、さまざまな思いをめぐらす。このような読書の体験は、その成長にとってかけがえのないものです。

福岡市総合図書館では、子どもたちの本を選ぶ目安として利用していただくために、対象年齢別に『モデル児童図書目録』を刊行しております。

今回刊行した目録は、昭和62年の初版から、平成12年に発行した幼児用のモデル児童図書目録第2版を改訂した第3版です。

幼児用は0歳から6歳までが対象ですが、今回は0歳から2歳を対象とする絵本を赤ちゃん向けとしてまとめ掲載しました。

目録の刊行にあたり、長年子どもの読書普及活動を支えてこられたボランティアグループの「子どもと絵本の会」、「福岡おはなしの会」、「ブックトーク2001」の皆様より、ご協力をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

この目録が、子どもたちの本を選ばれる時のお役にたてれば幸いです。

平成27年3月31日

福岡市総合図書館館長 久池井 良人

## 凡 例

1. この目録は平成12年2月作成のモデル児童図書目録（幼児用）をもとに、2011年までに刊行された図書をもとに、総合図書館と「子どもと絵本の会」、「福岡おはなしの会」、「ブックトーク2001」が協力して選定した幼児向けの図書171点をまとめたものです。

選定にあたっては、幼児自身は読めなくとも、読み聞かせ等により理解され、親しめるものを選んでいきます。

2. 配列は、書名の50音順です。








3. 図書についての記載事項は、書名、著者（作者、絵の作者、訳者等）、出版社名、発行年、福岡市総合図書館請求記号、ページ数、図書の大きさ、定価（本体価格）の順です。

4. 定価（本体価格）、入手の可否は、選定時のものによりましたので、その後の変更につきましてはご了承ください。

5. 巻末の作者等（作者名、絵の作者名、訳者名等）の索引は50音順に配列しています。ただし、同一人物で図書によって表示が違う場合は統一しています。

※ 掲載している図書については、次のとおりマークをつけているものがあります。

昔話や季節感のもので、一人では読めなくても身近な大人が読んであげることで楽しめる本等、本を選ぶ際の参考にしていただければ幸いです。

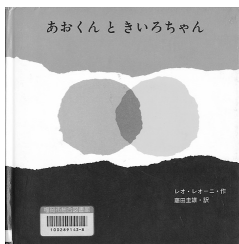
春		日本の昔話	
夏		世界の昔話	
秋		読んであげるなら	
冬			



アイラのおとまり  
バーナード・ウェーバー 作・絵  
まへざわ あきえ 訳  
ひさかたチャイルド 2009年 Eア  
48P 28×21cm 1,500円

お友達の家初めてお泊りに行くアイラ。いつも一緒に寝ているくまのぬいぐるみを持って行こうか、どうしようかと悩む。「子どもっぽいから笑われる」とお姉ちゃんに言われ、持って行かないことにするが……。

ちょっと背伸びしてみたい子ども心が、よく表現されている。



あおくと きいろちゃん  
レオ・レオーニ 作  
藤田 圭雄 訳  
至光社 1967年 Eア  
40P 21×21cm 1,200円

ある日、あおくんは仲良しのきいろちゃんと遊びたくなった。街角でばったり出会った二人は嬉しくて嬉しくて、喜ぶうちに重なり合って緑になってしまった。緑になった二人が家に帰るとどちらの両親からも「うちの子じゃない」と言われて……。ちぎり絵のあおくときいろちゃんが、生き生きと動き、子どもの心をひきつける。



ありこのおつかい  
石井 桃子 さく  
中川 宗弥 え  
福音館書店 1968年 Eア  
40P 28×22cm 1,300円

アリのありこはお使いに行く途中、道草をくって、カマキリのきりおに飲みこまれてしまった。そのきりおはむくどりに、むくどりはやまねこにと次々に飲みこまれ、くまきちがお母さんにぶたれると、今度は逆の順に飛び出していった。

昔話のような味わいがあり、小さい子に親しまれる。白地を生かした絵もすばらしい。



ありのぎょうれつ  
得田 之久 さく  
童心社 改訂 2001年 Eア  
29P 21×19cm 1,000円

ありが行列をつくって向かった先にはあおむしが。力を合わせて獲物を巣に持ち帰るありたち。

シンプルでリズムカルな文章と、公園や庭の隅で見かけるありの行列を、そのまま切り取ったかのような画面で構成されている。





アンガスとあひる  
マージョリー・フラック さく・え  
瀬田 貞二 やく  
福音館書店 1974年 Eア  
32P 17×25cm 1,100円

アンガスは何でも知りたがる小犬。一番知りたいのは生垣の向こう側から聞こえるやかましい音の正体。ある日家を飛び出したアンガスは、その音の正体である2羽のあひると出会う。そこで始まる1匹と2羽の追いかっこ。最初はアンガスが優勢だったが・・・。

スピード感ある追いかっこにハラハラし、結末でほっと一安心できる。

シリーズに『まいごのアンガス』もある。



アンディとらいおん  
ジェームズ・ドーハーティ ぶんとえ  
むらおか はなこ やく  
福音館書店 1961年 Eア  
80P 27×20cm 1,300円

アンディは、ライオンの本を読んで、ずっとライオンのことを考える。学校に行く途中、前足にとげがささったライオンに出会い、とげをぬいてあげる。サーカスでライオンに襲われそうになるが、それはアンディが助けてやったライオンだった。アンディとライオンは友達になっていく。

こわいイメージのライオンに親近感を覚える。



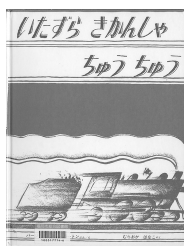
イエペはぼうしがだいすき

石亀 泰郎 写真

文化出版局 1978年 Eイ

40P 23×22cm 1,300円

イエペは、デンマークに住む3歳の男の子。帽子が大好きで、100も持っている。一番のお気に入り茶色の帽子。散歩の時も幼稚園で過ごす時も、いつもかぶっている。みんなにからかわれて、ある日、帽子をかぶっていかなかった……。イエペの生き生きとした表情から、帽子への思いが伝わってくる。イエペを見守る人々の愛情も感じられる、写真絵本ならではの味わいのある一冊。



いたずらきかんしゃちゅうちゅう

バージニア・リー・バートン ぶん・え

むらおか はなこ やく

福音館書店 1961年 Eイ

45P 31×23cm 1,200円

小さな機関車ちゅうちゅうは、真っ黒くてピカピカ光っていて可愛くて、それに少々冒険好き。ある日、あの重い客車など引きたくないと思い、一人で逃げ出した。早く走れとぐんぐん飛ばして野を越え山越え、そして古い線路に入り込みとうとう迷子に。

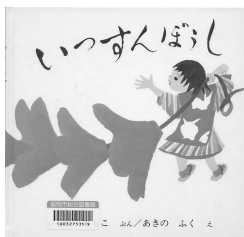
上手に組み立てたストーリーにスピード感を加えて、乗り物の好きな子どもを喜ばす。



いたずらこねこ  
バーナディン・クック ぶん  
レミイ・シャーリップ え  
まさき るりこ やく  
福音館書店 1964年 Eイ  
48P 19×27cm 1,100円

昔話の語り口にも似た、快いリズムの文と、優しい鉛筆画の絵本。小さなかめの住む小さな池にだけ緑色が使われていて、効果的である。

いたずらこねこが、初めて隣のかめに出会う、その驚きと好奇心そして戸惑いが、生き生きとしたドラマとなって伝わってくる。



いっすんぼうし  
いしい ももこ ぶん  
あきの ふく え  
福音館書店 1965年 Eイ  
40P 21×22cm 1,100円



お椀の舟に箸の櫂で都にのぼった指先ほどの小さな一寸法師が、鬼を退治してお姫様を助け、鬼の捨てていった打ち出の小槌で、立派な若者に成長するという有名な日本の昔話を絵本にしたもの。

華やかに雅やかに、絵巻物を見るように物語の場が展開され、上村松園賞受賞の日本画家の手になる絵本だけに、さすがに美しい。文章もわかりやすく、こまやかな心づかいが感じられる。



いよいよえん

中川 李枝子 さく

大村 百合子 え

福音館書店 1962年 913ナカ

177P 22×16cm 1,300円



ちゅーりっぷほいくえんに通うしげるは、園のきまりをよく忘れる。ある朝、しげるが「いよいよ」と言い続けていると、お母さんに「いよいよえん」に連れて行かれる。

誰もが必ず通る「いよいよ期」。大人も子どもも一緒に楽しみながら読んでほしい。

50年以上読み継がれてきた『ぐりとぐら』の作者による不朽の名作である。



うさぎとかめ

イソップ 原作

ポール・ガルドン え

さかの 弥生 ぶん

童話館出版 2012年 Eガ

38P 19×26cm 1,300円



足の速さが自慢のうさぎにかけっこ勝負を挑んできたのは、なんと歩みののろいかめ。余裕で昼寝をしてしまううさぎを横目に、かめは一步一步着実に進みゴールを目指す。誰もが知っているお話。自然や動物を愛するガルドンの絵は、2匹の対照的な性格を言葉以上に生き生きと描きだし、イソップ寓話のおもしろさをよく表している。



うたえほん  
つちだ よしはる え  
グランママ社 1988年 Eウ  
48P 19×19cm 1,500円

誰もが知っている「ゆりかごのうた」や「おかあさん」などの童謡48曲に、優しくかわいい絵をつけた、うたえほん。楽譜も付いているので、ピアノを弾きながら、歌いながら、絵を見ながらと、親子で一緒に楽しめる。たくさんの表情豊かな動物たちの絵も、曲にあわせて描かれている。また、「うさぎとかめ」「きらきらぼし」など、他48曲を集めた『うたえほん2』もある。



うみへいくピン・ボン・バス  
竹下 文子 作  
鈴木 まもる 絵  
偕成社 2004年 Eウ  
32P 21×26cm 1,000円

にぎやかな駅前から、岬の灯台まで走る路線バス。乗り込んだり降りていったりする人たちや運転手さんのやさしい表情、車窓を流れていく町の活気ある風景が生き生きと描かれている。簡潔でリズムカルな文章が快く、一緒にバスに乗っている気分を味わえる。美しい色使いもこの作品の特徴で、とりわけトンネルを抜けた先に広がる、きらきら光る海の鮮やかな青に目を奪われる。



うらまたろう

時田 史郎 再話

秋野 不矩 画

福音館書店 1974年 Eウ

31P 20×27cm 1,000円



誰にでもよく知られているうらまたろうの話。海で漁をするたろうを、乙姫自身が迎えに来るところにこの本の特徴がある。

海の「青」の色合いと、竜宮の「赤」を主体とした色合いとの対照が、見る人の心をひく。帰りたくなったたろうが、一人竜宮の窓から外を見る顔の表情が印象的である。



うれしいさんかなしいさん

まつおか きょうこ さく・え

東京子ども図書館 2012年 Eウ

44P 22×19cm 1,000円

表紙の笑顔いっぱいの「うれしいさん」は頭をぶつけていっぺんに「かなしいさん」になってしまう。裏表紙の涙顔の「かなしいさん」は小包をもらっていっぺんに「うれしいさん」に。二人とも喜んだり、悲しんだりを繰り返して……。前から始まるお話と、後から始まるお話が真ん中で出会う楽しい絵本。

本書の売り上げ収益は、東日本大震災復興支援事業の活動資金とされる。



### エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット さく

ルース・クリスマン・ガネット え

わなたべ しげお やく

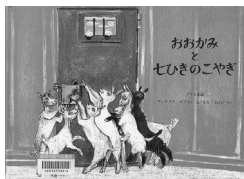
福音館書店 改版 2010年 93ガ

121P 22×16cm 1,200円



エルマーは、動物島に捕えられているりゅうの子どもを助けるため、リュックサックに七色のリボン、わゴム、ハブラシなどを詰めて出発する。次々と出会う難事を知恵と勇気で切り抜け、無事りゅうを助け出す。

この物語を生き生きと楽しめる幼児のうちに会ってほしい。他に『エルマーとりゅう』、『エルマーと16ぴきのりゅう』がある。



### おおかみと七ひきのこやぎ

グリム 原作

フェリクス・ホフマン え

せた ていじ やく

福音館書店 1967年 Eオ

32P 22×30cm 1,400円



グリム童話を数多く絵本にしたフェリクス・ホフマンが、初めて手がけた絵本で1957年に出版され、ドイツの年間児童優秀賞に選ばれている。版画や教会、学校のステンドグラス・壁画など多くの優れた作品を残しているホフマンは、グリム童話の絵本でも芸術的に優れていると評価が高い。この絵本でも絵と文が一体となって、流れるようにストーリーが展開し、絵本を楽しみながら一気に読める。



おおいきツリー ちいさいツリー

ロバート・バリー さく

光吉 夏弥 やく

大日本図書 2000年 Eオ

32P 26×20cm 1,300円



もうすぐクリスマス。ウィロビーさんのお屋敷にもツリーが届いた。ところが大きすぎて天井につかえるので、先はぱっさりちよん切られ、それをもらった小間使いの部屋にも大きすぎて切られ、それをもらった庭師の家にも大きすぎて……。ツリーの先はどんどんちよん切られていくが、最後にねずみの家にぴったり収まる。ユーモアいっぱいのツリーの展開は、まるで愛のリレーのようで心があたたまる。



おおきなおおきなおいも

赤羽 末吉 さく・え

福音館書店 1972年 913アカ

88P 22×16cm 1,200円



幼稚園の教育実践の中から生まれた絵本。雨で芋掘り遠足に行けなかった子どもたちは、お芋は畑で毎日どんなに大きくなるのか、紙に描いてみる。どんどん、際限なく大きくなるお芋。さて、どうして運ぶか、食べるのか。子どもの空想力、バイタリティには目をみはるばかり。

鮮やかなお芋の赤さが強く印象に残る。





おおきなかぶ  
A. トルストイ 再話  
内田 莉莎子 訳  
佐藤 忠良 画  
福音館書店 1966年 Eオ  
27P 20×27cm 800円

おじいさんが畑に植えたかぶは、とてつもなく大きくなって、ひっぱってもぬけない。おじいさんは、おばあさんと呼び、おばあさんは孫と呼び、孫は犬と呼び・・・。

「うんとこどっこいしょ」と繰り返す楽しいリズム。掛け声を掛けながら、かぶを引っ張るおもしろさ。



おかあさんだいすき  
まーじょりー・ふらっく 絵と文  
光吉 夏弥 訳・編  
岩波書店 改版 1980年 Eオ  
59P 21×17cm 640円

男の子のダニーは、お母さんの誕生日に何をあげようかと考えます。そしてめんどり、がちょう、やぎ、ひつじ、めうしに聞きますが決まりません。最後にくまに聞いて、いいことを教えてもらいます。

明るい絵、そして心あたたまるラスト。この他に、スウェーデンに古くから伝わる「おかあさんのあんでくれたぼうし」を併載。



おさるとぼうしうり  
エズフィール・スロポドキーナ さく・え  
まつおか きょうこ やく  
福音館書店 1970年 Eオ  
42P 22×17cm 1,100円

頭の上に、いくつもの帽子をうず高く積み上げて売り歩く帽子売りのおじさん。

ある日、木の下でぐっすり眠って目覚めると、売り物の帽子が全部なくなっていて、木の上には、帽子をかぶったたくさんのおさるが。さて、どうやって取り戻すのか……。

のんびりとした大らかなユーモアが楽しい絵本。



おいしいのぼうけん  
ふるた たるひ さく  
たばた せいいち 画  
童心社 1974年 Eオ  
77P 27×20cm 1,300円



さくら保育園には、怖いものが二つある。言うことを聞かない子が入られるおいしいと人形劇のねずみばあさんだ。あきらとさとしは、喧嘩の罰においしいに入れられる。暗がりから現れたねずみばあさんとねずみの大群に追われて、二人の大冒険が始まる。

大人の言い分と子どもの言い分、双方の歩み寄りがほほえましい。鉛筆で描かれた力強い絵が表情豊かで魅力的である。



おだんごぼん  
せた ていじ やく  
わきた かず え  
福音館書店 1966年 Eオ  
23P 31×22cm 1,200円

おじいさんがおいしいものを食べたくって、おばあさんがおだんごぼんをこしらえた。ぼんはころころ逃げだして、「ぼくはてんかのおだんごぼん」と歌いながら、うさぎやおおかみからも逃げたのさ。

ロシア民話を、淡い茶色を基調に、素朴に表現豊かに描いており、きつねにだまされて食べられてしまう結末も、ドライで面白い。



おちゃのじかにきたとら  
ジュディス・カー 作  
晴海 耕平 訳  
童話館出版 改訂新版 1994年 Eオ  
32P 27×20cm 1,400円

ソフィーとお母さんが、おちゃの時間にしようとした時、玄関のベルがなった。やってきたのは、大きくて、しましま模様のとらだった。とらが、家中の食べ物をどんどん食べ尽くしていく様が豪快に描かれ、とらがお客様というナンセンスな面白さを、いっそう引き立たせている。また、満足気なとらの表情と明るく多彩な色調は、見る者を楽しませてくれる。



おっばい  
みやにし たつや 作・絵  
鈴木出版 1990年 Eオ  
25P 23×22cm 1,100円

ぞうさん、ねずみさん、ごりらさん、ぶたさんだって、みんなおっばいを飲んで大きくなるんだね。おっばいがでてきて、いったい誰のおっばいなんだろうと思ってページをめくると、おいしそうに飲んでいる動物たち。最後は、みんなが大好きな人間のお母さんのおっばいだよ。とてもほほえましい絵本。



おとなしいめんどり  
ポール・ガルドン 作  
谷川 俊太郎 訳  
童話館出版 1999年 Eオ  
40P 20×19cm 1,300円



ねこといぬとねずみとめんどりが、一緒に暮らしていた。めんどりはせっせと働くが、他の三匹は手伝いもせず、寝てばかり。めんどりはひとりで小麦を育て、粉にし、お菓子を焼いた。

「さあ、食べよう。」と皆の期待が高まった時、めんどりが言ったのは・・・。

表情豊かな絵が簡潔な文を補い、登場人物の気持ちを表す。そう快な結末には思わず喝采。



おにぎり

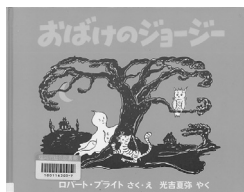
平山 英三 ぶん

平山 和子 え

福音館書店 1992年 Eオ

23P 22×22cm 800円

あつあつのごはんから、お母さんがにぎってくれるおにぎり。どんなに食の豊かな時代でも、やっぱり特別のものだ。描かれている手のひらは、本物に近い大きさと、やわらかさやぬくもりさえ感じさせる。手のひらに水をつけて、塩をつけて、それからそれから…。おにぎりが出るまで、ひとつひとつの過程が実に丁寧に描かれていて、手作りの温もりや感動が伝わってくる絵本である。



おばけのジョージ

ロバート・ブライト さく・え

光吉 夏弥 やく

福音館書店 1978年 Eオ

44P 20×25cm 1,100円

ちいさなおばけのジョージが、階段をみしりといわせ、ドアをギーといわせると、ホイテッカーさんと奥さんの寝る時間、猫のハーマンはねずみをさがす時間、ふくろうのオリバーは目をさまして鳴く時間。ところがある日……。

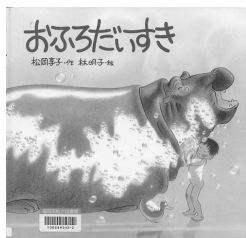
ペン画の絵が、ちょっぴりこわい雰囲気を持たせている。



おばけのバーバパパ  
アネット・チゾン さく  
タラス・テイラー さく  
やました はるお やく  
偕成社 1972年 Eオ  
32P 23×26cm 1,000円

バーバパパは、フランソワの庭で生まれた、綿菓子を大きくしたようなおばけで、自由に姿を変えることができる。動物園に入れられるが追い出される。火事場で階段になり人を助けたり、動物園から逃げ出したひょうを捕らえたことで、町の人気者になり、フランソワの家に帰ってくるというお話。

漫画風な絵が子どもに人気がある。



お風呂だいすき  
松岡 享子 作  
林 明子 絵  
福音館書店 1982年 Eオ  
40P 26×27cm 1,300円

ぼくが、おもちゃのあひると一緒にお風呂に入っていると、湯舟の中から大きなかめが、ぽかっと現れた。それから、ペンギン、オットセイ、かぼと次々に現れ、最後にはクジラまで。

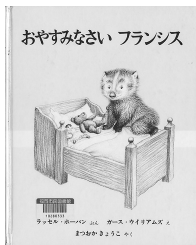
日常生活の中に現れたファンタジーの世界。絵のやわらかな色合いが、お風呂の温かさと湯気の肌触りを感じさせてくれる。



おやすみなさいのほん  
マーガレット・ワイズ・ブラウン ぶん  
ジャン・シャロー え  
いしい ももこ やく  
福音館書店 1962年 Eオ  
32P 25×21cm 1,100円

夜になって、何もかも眠ります。小鳥も魚も羊も獣も自動車も飛行機も……。 「ねむたい〇〇〇たち」の繰り返しの言葉が子守歌のように、子どもの心を落ち着かせ、読み手にも聞き手にもいつまでも心に残る絵本。

優しい言葉と大きな文字、やわらかい色調の絵が心に安らぎを与えてくれる。



おやすみなさいフランス  
ラッセル・ホーバン ぶん  
ガス・ウイリアムズ え  
まつおか きょうこ やく  
福音館書店 1966年 Eオ  
31P 26×21cm 1,100円

フランスは、夜眠る時間になっても眠れない。「部屋に何かいる」、「カーテンがゆれている」と度々起きてきては訴えてくる。両親はその都度、やさしく、辛抱強く、そしてきっぱりと答える。

寝付けぬ子どものわがままや不安。そして、それを大らかに受けとめる両親の態度が、ほほえましく描かれている。



かいじゅうたちのいるところ  
モーリス・センダック さく  
じんぐう てるお やく  
富山房 1975年 Eカ  
36P 24×26cm 1,400円

ある晩マックスは、おおかみのぬいぐるみを着て大暴れ。怒ったお母さんに夕飯抜きで寝室に閉じ込められた。やがて木が生えだし森になって、波が打ち寄せてきた。マックスは、船に乗って「かいじゅうたちのいるところ」へ・・・。

見開きいっぱいに描かれた「かいじゅうおどり」の場面は、迫力満点。ファンタジーの世界を存分に味わわせてくれる絵本。



かしこい ちいさな さかな  
バーナディン・クック ぶん  
クロケット・ジョンソン え  
こかぜ さち やく  
福音館書店 2001年 Eカ  
64P 21×17cm 1,000円

魚が一度も釣れたことはないが、毎日元気に釣りにでかける男の子に、ある日すばらしい事が起きた。「とてもとてもおおきなさかな」、「とてもおおきなさかな」と次々に登場。最後に「ちいさなちいさなさかな」が餌を見破って逃げてゆく様子に男の子は「なんてかしこいさかな」と大笑いする。地味な色彩だが表情豊かな漫画風の絵がお話のユーモアを引き立たせている。





かしいビル  
ウィリアム・ニコルソン さく  
まつおか きょうこ やく  
よしだ しんいち やく  
ペンギン社 1982年 E力  
23P 19×26cm 1,000円

おばさんから招待をうけて、旅の準備を始めたメリー。持っていく物は、手袋と笛とくつと、それから、もちろん人形のビル。ところが、トランクに一生懸命荷物を詰めているうちに、何とビルを入れ忘れてしまった。置いていかれたビルは起き上がり、走りに走って全速力でメリーを追いかけて行く。

90年以上前に書かれた古典。メリーと人形との心の通い合いが子ども共感を誘う。



かぜのこもりうた  
くどう なおこ 詩  
あべ 弘士 絵  
童話屋 1994年 E力  
32P 18×25cm 1,340円

お母さんの言いつけを聞かず、広い草原で迷子になったぞうのぼうや。不安な心に、かぜはそっとうたってくれる。「そっとおやすみ。かあさんはみつかるよ。あしたになればきっとね。」

大草原の様子、多くの動物たちが優しい色使いで描かれている。お母さんに会えた喜びが、少ない言葉であたたかく表現されたほほえましい絵本。



かちかちやま  
おざわ としお 再話  
赤羽 末吉 画  
福音館書店 1988年 E力  
32P 22×25cm 1,200円



数あるかちかち山の絵本のなかで、これほど小気味よい絵本は他に見ない。絵は2ページ1画でスケールも大きく迫力ある画風である。

文章は、昔話の本来の形に重きがおかれており、登場者のかけあいの言葉はリズムカルで味わい深い。例えば「かややまのうさぎはかややまのうさぎ、そいつはおれじゃないさ…。きのふね、ぽんこらしよ、つちふね、ざっくらしよ…」など。待ちかねた一冊である。



かにむかし  
木下 順二 作  
清水 崑 絵  
岩波書店 1976年 E力  
44P 33×26cm 1,600円



かにが植えた柿の木に猿が登り、甘い柿の実をパクパク食べる。そして、かにのために青くて堅い実を投げてやり、それが当たったかには潰れて死んでしまう。そこで子がにが仲間と力を合わせて、悪いことをした猿を懲らしめるという「さるかに合戦」のお話。

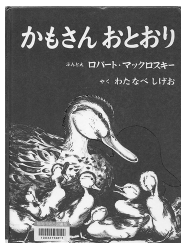
昔懐かしい語り口と歯切れの良い文章はリズム感があり、たくさん子どもたちに親しまれている。



かばくん  
岸田 衿子 さく  
中谷 千代子 え  
福音館書店 1966年 Eカ  
27P 20×27cm 800円

動物園の一日。かめを連れて動物園を訪れた男の子と、かばの親子とのふれあい。柔らかな色彩と確かなデッサンは、かばの親子に確固たる存在感を与えている。

小さなかめと、大きなかばとの対比はおもしろく、詩のようなりズムのある文章も、口に出して読むと心地よい。



かもさんおとおり  
ロバート・マックロスキー ぶんとえ  
わたなべ しげお やく  
福音館書店 1965年 Eカ  
64P 31×24cm 1,300円



かものマラードさん夫妻は、水辺のしげみの中に巣を作るのに良い場所を見つけ、八羽の子どもを生む。母鳥とひな達の、思わず吹き出したくなるかわいい様子や、心優しいおまわりさんとの交流など、あたたかくほほえましい情景が、セピア色で生き生きと描かれている。末尾にある「ボストンのちず」も話に実感がわく。



からすのパンやさん

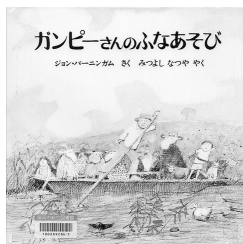
かこ さとし 作・絵

偕成社 2版 2010年 Eカ

32P 26×21cm 1,000円

からすのパンやさんに4羽の赤ちゃんが生まれ、お父さん、お母さんは大忙しになり、パン作りは失敗続き。そんな失敗パンを子どもたちがおやつに持って行くと、美味しいと評判になり、さらに子どもたちがアイデアを出して、いろいろなパンができあがった。それをかうため、森が大騒ぎとなり、思いがけない方向へ。

たくさんのパンの種類やからすたちの表情がとても楽しい絵本。



ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム さく

みつよし なつや やく

ほるぷ出版 1976年 Eガ

32P 26×26cm 1,200円



ガンピーさんの舟に乗せてもらった子どもと動物たち、約束を忘れて大騒ぎ。舟はひっくり返るが、岸に着いて、野原を横切って帰り、みんなでお茶を楽しむ。

右側のページは動物と背景が彩色してあり、左側のページは単彩の風景が描かれていて、舟の進行がわかるように工夫されている。あるがままのだからあたたかさが良い。



きつねとねずみ  
ビアンキ さく  
内田 莉莎子 やく  
山田 三郎 え  
福音館書店 1967年 Eキ  
19P 27×19cm 800円

何かいいことないかと、あたりを見まわしていたきつねは、小さな野ねずみを見つけて食べようとするが、知恵のあるねずみは地面に穴を掘って、見事にきつねからのがれる。

大自然の中で生きる動物達の、命がけのきびしいドラマが、優しく、しかもユーモラスに描かれている。きつねとねずみの会話は詩のようで軽やかだ。



きょうはみんなでクマがりだ  
マイケル・ローゼン 再話  
ヘレン・オクセンバリー 絵  
山口 文生 訳  
評論社 1991年 Eキ  
32P 27×29cm 1,400円

よく晴れた日、赤ちゃんも入れて五人と一匹は、クマがりに出かける。草原をぬけ、川を渡り、ぬかるみを歩き、森をぬけ進んで行く様子に、読んでいる者の期待もどんどんふくらんでいく。だが、クマに出会った途端・・・。

リズムのある文章の繰り返しと擬音語がとても楽しい。



ぎょうれつぎょうれつ

マリサビーナ・ルッソ 絵と文

青木 久子 訳

徳間書店 1994年 Eギ

24P 21×26cm 1,300円

「ごはんですよ」とお母さんに呼ばれたサムは、「ちょっとまって」と返事をして積木をならべはじめた。「ぎょうれつ、ぎょうれつ、つみきのぎょうれつ」サムのぎょうれつは続く。

生活の中の生き生きした子どもの姿と、おおらかに受けとめるお母さんの姿が、パステル色を中心としたやわらかい絵で、見事に描きだされている。



キリンさん

まど みちお 詩

南塚 直子 絵

小峰書店 1998年 Eキ

27P 24×25cm 1,500円

この本には、童謡として知られている「ぞうさん」をはじめ、「キリンさん」、「くまさん」、「うさぎ」などが掲載されている。あたたかく、美しい銅版画は、命の喜びや自分が自分であることの喜びをやさしい言葉でうたいあげた、まどみちおの詩に見事にマッチしている。声を出して読んであげると、幼い子どもも思わず顔をほころばせる。『まど・みちお詩のえほん』には、他に『たんぼぼヘリコプター』などがある。



くまのコールテンくん  
ドン＝フリーマン さく  
まつおか きょうこ やく  
偕成社 1975年 Eク  
30P 23×25cm 1,200円

デパートのおもちゃ売り場にいたくまのコールテンくん。つりひものボタンがとれて売れ残っていたところ、女の子リサと出会う。その夜コールテンくんはボタンを探しに行くがデパートの中は知らないことばかり。子どもたちはコールテンくんと一緒にどきどきするだろう。最後、リサにだっこされたコールテンくんの満足気な表情がとてもよい。

同じ著者の本で『くまのビーディーくん』もある。



クリスマスのまえのばん  
ターシャ・テューダー 絵  
クレメント・ムア 詩  
中村 妙子 訳  
偕成社 改訂新版 2000年 Eク  
31P 29×23cm 1,400円



150年前、ムアがわが子のために作った詩である。サンタクロースを待つ子どもたちの気持ちを、いきいきと描いたムアの詩に、ターシャの気品ある美しい挿し絵がつけられた、親子も楽しめるクリスマス絵本。クリスマスを迎える家の内外の様子がていねいに描き込まれていて、読者を楽しい世界に誘うことだろう。



### ぐりとぐら

中川 李枝子 さく

大村 百合子 え

福音館書店 1967年

Eグ

27P

20×27cm

800円

野ねずみのぐりとぐらは、お料理するのと食べるのが大好きだ。二匹は、かごを持って森の奥へ出かけた。そこで、とても大きな卵を見つけ、カステラを作った。

子どもたちは、単純な線で可愛く描かれたぐりとぐら、おいしいそんなカステラ、卵の殻で作った自動車は、子どもたちに大人気。



### ぐるんぱのようちえん

西内 ミナミ さく

堀内 誠一 え

福音館書店 1966年

Eグ

27P

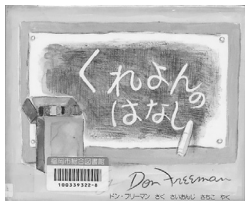
20×27cm

800円

ひとりぼっちで暮らしていた泣きべそ象のぐるんぱは、働きに出かけることになったが、どの勤め先でもうまくいかない。追いだされるたびに増える失敗作の大きすぎるビスケット、皿、靴、ピアノを超特大の自動車に乗せて、次の仕事探しに……。

しゃれた色調のコミカルな絵。失敗作品が全部役に立つ結末の逆転がそう快。

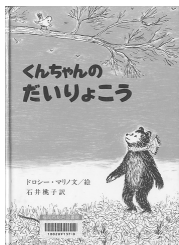




くれよんのはなし  
ドン・フリーマン さく  
さいおんじ さちこ やく  
ほるぶ出版 1976年 Eク  
40P 15×18cm 1,000円

箱の中に入った8本のクレヨンが、外に出たがっている。ぽっとふたがあいて、絵を描き始める。青、黄、茶、緑、紫、黒、白、赤の順に描いていき、絵がどんどん形を変えていく。

クレヨンたちが話をしたり、その絵に出てくる男の子やカメラにも物語があって、クレヨんのはなしというだけに、絵がほのぼのとして優しい感じがする。



くんちゃんのだいいりょう  
ドロシー・マリノ 文／絵  
石井 桃子 訳  
岩波書店 1986年 Eク  
35P 27×19cm 1,000円



渡り鳥から暖かい南の国のことを聞いた、子ぐまのくんちゃん。自分も南の国に行ってみようと、お母さんにさよならのキスをして、出発したところまでは良かったのだが……。

いかにも子どもらしい、くんちゃんの行動も楽しいが、背後に大自然の奥行きを感じさせる、黒・青二色のみを用いた絵も素朴で好ましい。



こすずめのぼうけん  
ルース・エインズワース 作  
石井 桃子 訳  
堀内 誠一 画  
福音館書店 1977年 Eコ  
31P 20×27cm 800円

お母さんすずめに初めて飛び方を習った子すずめが、遠くまで飛んで行き、いろいろな鳥たちと出会うが、仲間に入れてもらえずやがて辺りは暗くなる……。

子すずめの喜びと不安の表情が絶妙。その子すずめに対する、からすやかもなどの姿も楽しい。最後の場面で、お母さんすずめの愛情に心がなごむ。



こども世界の民話上・下  
内田 莉沙子 ほか著  
実業之日本社 1995年 90コ  
238P 22×16cm 1,845円



ミャンマーの「ひなどりとネコ」、ジャマイカ島の「アナンシと五」、エストニアの「とまらないくしゃみ」などさまざまな地域の昔話が、上下巻にそれぞれ20話ほど収められている。おもしろい話、心にしみる話、珍しい話もあれば、聞いたことのある話もある。お話に耳を傾ける楽しみを味わわせてくれる本である。子どもの身近にいる人が子どものために、ぜひ声に出して読んでやってほしい。



こぶじいさま

松居 直 再話

赤羽 末吉 画

福音館書店 1980年 Eコ

27P 20×27cm 800円



「くるみは ばっば、ばあくづく、おさなぎ、やあつの、おっかあかあ・・・」ある日、額にこぶのあるじいさまが、山の御堂で眠っていると、こんなおかしな歌が聞こえてきた。恐る恐る外をのぞいてみると、大勢の鬼たちが御堂を囲んで踊っていた。誰もが知っている昔話が優しい色彩とモノクロで描かれている。



こんとあき

林 明子 さく

福音館書店 1989年 Eコ

39P 28×22cm 1,300円

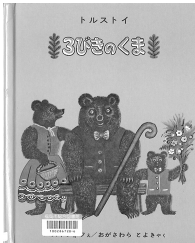
ぬいぐるみのこんがポロポロになってきたので、こんとあきは直してもらおうと、おばあちゃんの家に行くことにした。途中こんが電車のドアに挟まれたり、犬にくわえられたりするが、何とか乗り越えておばあちゃんの家にとどり着く。こんをきれいに直してもらって、ほっとする心あたたまのお話。

あきが心細くなるたびに、こんが言う「だいじょうぶ だいじょうぶ」に心重ねる子どもも多いことだろう。



サンドイッチサンドイッチ  
小西 英子 さく  
福音館書店 2008年 Eサ  
24P 22×21cm 800円

「サンドイッチ サンドイッチ さあ つくろう。ふわふわパンに新鮮なレタス、トマト、大きなハムにたまごものせて・・・」鮮やかな色彩とリズムある文章で、サンドイッチができあがっていく様子にワクワク。実物大の写実的な描写は、まるで本物を目にしているよう。思わずサンドイッチを作りたくなる、食べたくなる、おいしい気持ちになれる絵本。



3びきのくま  
トルストイ ぶん  
バスネツォフ え  
おがさわら とよき やく  
福音館書店 1962年 Eサ  
17P 28×23cm 1,100円



森の中に住む3びきのくまの親子が散歩に出かけた留守に、道に迷った女の子がやってきて……。トルストイの再話。くまたちのロシア風な名前も楽しく、また、くまたちやおわん、スプーンなど、「おおい」、「ちゅうくらい」、「ちいさい」の繰り返しの表現が子どもたちを喜ばせる。

民族色豊かな絵が雰囲気を出している。



三びきのこぶた  
 瀬田 貞二 やく  
 山田 三郎 え  
 福音館書店 1967年 Eサ  
 18P 27×19cm 800円

三匹の子ぶたは、それぞれの家を建てた。わらの家や木の家を建てた子ぶたは、オオカミに食べられてしまうが、三番目の子ぶたは知恵と機転で、オオカミを出し抜いて・・・。

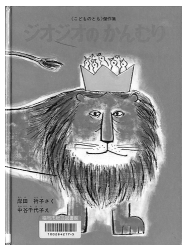
この絵本は、昔話として語り伝えられたままのストーリーを忠実に再話したもので、大らかなユーモア、昔話のもつエネルギーが感じられる。



三びきのやぎのからがらどん  
 マーシャ・ブラウン え  
 せた ていじ やく  
 福音館書店 1965年 Eサ  
 32P 26×21cm 1,100円

山へ草を食べに行く三匹のやぎを、谷川の橋の下で、ぐりぐり目玉の怪物トルルが待っている。一匹目と二匹目のやぎは、うまく橋を渡るが、最後の大きいやぎのからがらどんは、橋の上で決闘に・・・。

繰り返しを生かした簡潔な文と黄、茶、青、黒の四色の力強い絵で描く北欧民話の絵本。



## ジオジオのかんむり

岸田 衿子 さく

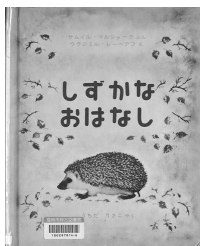
中谷 千代子 え

福音館書店 1978年 Eジ

19P 27×20cm 800円

ジオジオは、年老いたらいおんの王様。へびやひょうに卵をとられ困っている鳥に、王の冠の中に巣を作るようにすすめる。卵を壊すまいと、のっそり歩くジオジオ。雨が降れば、木の下にたたずむ……。

百獣の王が、小鳥に示す優しさが胸を打つ。満ち足りたライオン  
の表現が素晴らしい。



## しずかなおはなし

サムイル・マルシャーク ぶん

ウラジミル・レーベデフ え

うちだ りさこ やく

福音館書店 1963年 Eシ

12P 28×23cm 1,100円



父さんと母さんとぼうやははりねずみのお話。秋の夜、森に散歩に出かけると二匹の狼に出会う。はりねずみはまんまるくなって針をたて身を守り戦う。猟師の鉄砲の音と犬の吠え声に驚いて狼は逃げだす。

詩人マルシャークの文にレーベデフの絵が、地味だが心の奥深いところに働きかけてくれるロシアの代表絵本。



しずくのぼうけん  
マリア・テルリコフスカ さく  
うちだ りさこ やく  
ボフダン・ブテンコ え  
福音館書店 1969年 Eシ  
24P 21×24cm 900円

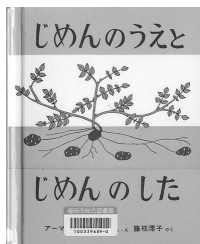
村のおばさんのバケツから、びしゃんと飛び出したひとしずくの水。そこから、しずくの大冒険が始まる。水はどんな形にも変われるし、空の上から山や川、洗濯機の中までいろいろな所に行くことができる。次はどんな形になってどこへ行くのか、ページをめくるたびにワクワクする。物語を楽しみながら水の循環が理解できる科学絵本。



しっぽのはたらき  
川田 健 ぶん  
藪内 正幸 え  
福音館書店 1972年 Eシ  
23P 26×23cm 900円

表紙いきなり果物をもぎとるマンモスの鼻(?)が出てくるが、ページをめくるとその持ち主が正体を現す。以下、パラシュートの役目をするしっぽ、音を出すしっぽ、針が生えたしっぽ、切れてもぴよんぴよん動くしっぽなどが次々と登場。

しっぽの色々な働きに対する驚きから、更にその持ち主の生態へと関心が広がってゆく。



じめんのうえとじめんのした  
アーマ E. ウェバー ぶん・え  
藤枝 滯子 やく  
福音館書店 改訂 2001年 47ウ  
29P 22×18cm 1,000円

植物が芽をだし、茎がのび、幹や葉が育つとき、地面の下でも根が横や下にはってくる。この本の絵は、1本の横線で地面の上と下とに区切って描かれている。普通、地上の植物しか見えないが、地面の下にも植物は生き続けているわけで、簡単な絵の中で、植物が育ち、動物は、その植物を利用して生活していることを教えてくれる。幼い子どもにもわかりやすい。



じゃぐちをあけると  
しんぐう すすむ さく  
福音館書店 2009年 Eジ  
24P 24×21cm 800円

じゃぐちをあけると、どうなる？ 流れ出る水がスプーンに当たったり、フライパンに入ると、宇宙船や海に見える。水遊びが大好きな子どもは読んだ後、実際にいろいろな物に水を当ててみたくなるだろう。リズムカルな文章が想像力をかき立て、色使いが、視線を水に集中させる。立体芸術家でもある作者が、流れる水の面白さをシンプルかつダイナミックに表現した幼児向けの科学絵本である。





しょうぼうじどうしゃじふた  
渡辺 茂男 さく  
山本 忠敬 え  
福音館書店 1966年 Eシ  
27P 20×27cm 800円

町の消防署に、古いジープを改良した消防自動車じふたがいた。じふたは出動命令が出ないため、ひげ目を感じていた。ある日、山小屋で火事があり、道が狭くて大きな消防車が活動できない。その時じふたが出動して見事に消火することができた。

自動車の好きな子どもに、動きのある絵、平明な文が、充分な満足感を与える。



11ぴきのねこ  
馬場 のぼる 著  
こぐま社 1967年 Eジ  
40P 27×19cm 1,200円

はらぺこな11ぴきのねこは、大きな魚を捕りに湖にでかける。一致協力し、やっと捕まえた魚は、一夜のうちに消える・・・。

マンガ的な絵は、黒の線描きで、それぞれ個性的なねこの姿をユーモラスにとらえて楽しい。ねこ集団のバイタリティーは、きっと子ども共感を得るだろう。

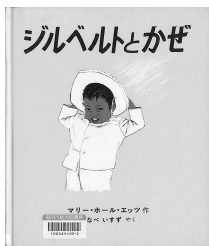
他に『11ぴきのねことぶた』、『11ぴきのねことあほうどり』などのシリーズがある。



ジョニーのかたやきパン  
ルース・ソーヤー 文  
ロバート・マックロスキー 絵  
こみや ゆう 訳  
岩波書店 2009年 Eジ  
44P 27×21cm 1,600円

おばあさんとおじいさん、そして、手伝いのジョニーは平和に暮らしている。ところが、家畜が次々にいなくなり、とうとう食べ物がなくなってしまう。おばあさんとおじいさんは、なけなしの材料で作ったかたやきパンをジョニーに持たせ、暇をやるのだが……。

やがて愛情たっぷりのかたやきパンは奇跡を起こす。最後は、元に戻ってめでたしめでたし。小さな読者たちも満足すること間違いなしである。



ジルベルトとかぜ  
マリー・ホール・エッツ 作  
たなべ いすず やく  
富山房 1975年 Eジ  
32P 26×22cm 1,200円

誰も風そのものを見ることはできない。しかし、その身体で風を感じるし、洗濯物がはためく時などは、視覚的にもその存在を知ることができる。これはそのような風といろいろな遊びをする少年の話。絵本に使われている沈んだ草色の紙は、舞台となった中南米の雰囲気伝えてくれ、そこに描かれた世界は味わい深く風を見せてくれる。



しろいかみのサーカス  
たにうち つねお さく  
いちかわ かつひろ しゃしん  
福音館書店 2009年 Eシ  
24P 21×24cm 800円

どこにでもある白い紙。折って立ててみると、走りだしそうな姿に。重ねると、お家のようにも見える。折ったり、切ったり、丸めたり、いろんな姿に変わる白い紙は、まるでサーカスのよう。身近にある題材を変化させ、新たな発見をさせてくれる写真絵本。平面から立体への視点など発想の展開を体験できる。

読んだ後は、すぐにでもまねしたくなる。



しろくまちゃんのほっとけーき  
わかやま けん え  
森 比左志 著  
わだ よしおみ 著  
こぐま社 1972年 Eシ  
20P 20×22cm 800円

しろくまちゃんはお母さんと一緒にホットケーキ作り。材料を揃え、かきまぜてフライパンに「ぼたん」、「どろどろ」、「ぴちぴち」、「ぷつぷつ」。ほかほかのホットケーキのできあがり。こぐまちゃんを呼んでおやつの時間、二人でお皿も洗います。子どもの生活感覚にあった、線と色のはっきりした絵本。



しんせつなともだち

方 軼羣 作

君島 久子 訳

村山 知義 画

福音館書店 1987年 Eシ

27P 20×27cm 800円



食べ物の少ない冬は、どの動物にとっても辛い季節。かぶを二つ見つけた子うさぎは、一つをろばの家に届けた。雪で困っているだろうと、ろばはかぶを子やぎの家に、子やぎはそれを子じかの家に、そして、かぶは再び子うさぎの家に戻ってきた。子うさぎはかぶを見てすぐに友達の善意を感じる。幸せは、それを分かち合える友達を持つことなんだと、冬の日々の心あたたまる一冊。



すてきな三にんぐみ

トミー＝アンゲラー さく

いまえ よしとも やく

偕成社 改訂 1977年 Eス

38P 30×22cm 1,200円

黒いぼうしに黒マント、現れ出たのはどろぼう三人組。夜になったら山を降り、ねらった獲物はのがさない。ところがある日、みなし児のテファニーちゃんを隠れ家へつれて帰り、集めた宝の使い道を聞かれて考えた。こわいどろぼうさまが、淋しく、悲しく、暗い気持ちで暮らしている、捨て子やみなし児を集めた。お城を買って、村を作って、いつの間にか素敵な三人組となる。



せきたんやのくまさん  
フィービ・ウォージントン さく・え  
セルビ・ウォージントン さく・え  
いしい ももこ やく  
福音館書店 1987年 Eセ  
32P 16×21cm 900円

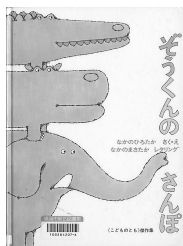
小さな子どもが親しみを持ちやすい、ぬいぐるみのくまを主人公にした小型絵本。働き者の「せきたんやのくまさん」の、朝起きてから夜寝るまでの行動を、わかりやすい表現で、きちんと伝えている。特別なことは何にも起こらないが、くまさんのまじめな働きぶりが何ともユーモラスで、あたたかく充実した読後感が味わえる。他に『パンやのくまさん』、『ゆうびんやのくまさん』などがある。



せんたくかあちゃん  
さとう わきこ さく・え  
福音館書店 1982年 Eセ  
31P 20×27cm 800円

ふっくらと太って、まんまる顔のどこにでもいるような庶民的なお母さんが主人公。このお母さんは洗濯が大好き。服だけでなく子どもたちや犬、猫、鶏、ネズミなど何でも洗濯してしまう。

雷様にもびくともせずに「よしきた、まかしときい」と胸を張るこのせんたくかあちゃんは、子どもの目に「頼もしいお母ちゃん」と映ることだろう。



ぞうくんのさんぽ  
なかの ひろたか さく・え  
なかの まさたか レタリング  
福音館書店 1977年 Eゾ  
27P 27×20cm 800円

今日はいい天気。ぞうくんは散歩に出かけた。「やあ かぼくん」「やあ わにくん」と、次々に背中にのせてお散歩だ。子どもたちはきくと、ぞうくんの背中の一番高い所で散歩を楽しむだろう。ところが、ぞうくんがころぶと……。

中間色でまとめられ、それぞれの動物が、非常に個性的でユーモラスに描かれている。



ぞうのエルマー  
デビッド・マッキー ぶんとえ  
きたむら さとし やく  
BL出版 2002年 Eゾ  
32P 24×21cm 1,200円

ぞう色ではなく、黄色で、赤で、桃色で……、つぎはぎのまだらのぞうのエルマー。ある日ぞう色になってみたら……。でも、みんなと違っているからエルマーなんだ。

仲間たちは底抜けに明るく、カラッとしている。エルマーの表情が楽しい。また、最後の見開き8ページにわたるお祭りの仮装行列は、カラフルなぞうであふれ、子どもの想像力をかきたてる。



そらいろのたね

中川 李枝子 さく

大村 百合子 え

福音館書店 改訂 1979年 Eグ

27P 20×27cm 800円

ゆうじがキツネにねだられて飛行機と取りかえた空色の種は、小さな家の芽を出した。水をかけるとどんどん大きくなる。町中の子どもや森の動物たちが次々と中に入り、家はお城のようになるが……。奇想天外なお話、ページをめくるごとに大きくなる家、子どもや動物や花が明るく生き生きと描かれている。ウイットあふれる結末もいい。



だいくとおにろく

松居 直 再話

赤羽 末吉 画

福音館書店 1967年 Eダ

27P 20×27cm 800円



急流で橋が架けられず困っている大工の所に鬼が現れて、大工にかわって橋を架けてくれた。その代償として目玉をよこせ、だが、鬼の名前を当てれば許してやると言う。さて、大工は鬼の名前を当てることができるか？こわくて面白くて、子どもたちに人気がある。

簡素なスミ絵と色鮮やかな大和絵風の絵を使い分けて、視覚的効果あげている。動きのある鬼の表情がユーモラスで楽しい。



たべたのはだれ？

藪内 正幸 さく

童心社 改訂 2004年 Eタ

32P 21×19cm 1,100円

ページを繰って目を見張るのは、精細で生き生きとした動物や鳥たちの絵。羽根の1枚1枚、毛の1本1本まで細かいタッチで描かれている。文章は1ページにひらがなで1行だけ。だが、もずやかまきりを木の小枝に刺した速贅（はやにえ）や同じくるみの実でも、ねずみとりすでは食べ方が違うなど、生態の特徴がきちんと分かる。そのまま小さな動物園になる絵本である。



だるまちゃん と てんぐちゃん

加古 里子 さく・え

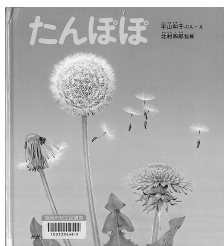
福音館書店 1967年 Eダ

27P 20×27cm 800円

だるまちゃんは、てんぐちゃんの持っている羽うちわを欲しが。大きなだるまどんが、たくさんの種類のうちわを出してくれるがだるまちゃんは気に入らず、結局は自分でやつでの葉っぱを見つけてご満足。このあと、帽子、はき物、鼻と同じパターンが繰り返される。

奇抜な主人公、子どもの日常に即した話、物づくし遊び……楽しみが多い絵本。





## たんぽぽ

平山 和子 ぶん・え

福音館書店 1976年 Eタ

23P 26×23cm 900円



たんぽぽの生態が良く描かれている。ことに根の長さが横4ページにつながって描かれており、長さを実感として受けとめることができる。一日の花の変化と雨の日の花の様子、一本の花が小さな花の集まりであることが図になっていてわかりやすく、風が運ぶ種の話など、小さな野の花が力強く咲いていることに感動を覚える。



## ちいさいしょうぼうじどうしゃ

ロイス・レンスキー ぶん・え

わたなべ しげお やく

福音館書店 1970年 Eチ

47P 19×22cm 900円

子どもたちは自動車、中でも消防自動車が大好きだ。堂々と描かれた赤い消防自動車のそばに誇らしげに立っている消防士は、おなじみのスモールさん。頼もしげな助手席の犬。消防車の複雑な機能も簡潔な線書きできちんと描かれ、知りたがりやの子どもの心を満足させてくれる。さて、今日も小さな消防自動車は小さな町の小さな火事場で大活躍。わが子の問いに答えながら書かれたと言われる絵本。



ちいさなうさこちゃん  
ディック・ブルーナ ぶん・え  
いしい ももこ やく  
福音館書店 改版 2010年 Eチ  
28P 17×17cm 700円

大きな庭の中のかわいい家に住んでいるうさぎの夫婦、ふわふわさんとふわおくさんに、赤ちゃんが生まれ、うさこちゃんと名付けられた……。

多くの子どもたちに愛されているうさこちゃんの誕生のお話。黒い太線によるふちどりと原色を生かした絵は赤ちゃんにも親しみやすい。新しい書体と「新ブルーナ・カラー」が使われている改版（初版は1964年）である。



ちいさなねこ  
石井 桃子 さく  
横内 襄 え  
福音館書店 1967年 Eチ  
27P 20×27cm 800円

母ねこの留守中に、外へ飛び出したちいさなねこは、生まれて初めて危険ということを経験する。元気な男の子、道をつっ走る車、そして大きな犬。追っかけられて近くの木にかけ登るが……。救出に駆けつける母ねこの細心さと勇気ある行動で一件落着。

横長の紙面いっぱい横たわり、おっぱいを吸わせる母ねこの存在感がまぶしい。



ちいさなヒッポ  
マーシャ＝ブラウン さく  
うちだ りさこ やく  
偕成社 1983年 Eチ  
32P 25×24cm 1,200円

カバのお母さんと、小さなぼうやヒッポのおはなし。生き抜くための大切なこと—危険を知らせるさげび—を教えるお母さんを、愛情こめて描いている。1ページ、1ページ、子どもたちはヒッポと一体になり胸をおどらせて聞いていき、最後にホッとして本を閉じる。マーシャ・ブラウンの動きのある絵と色の重なりが美しく、版画のもつ力強さが印象的。



ちいさなろば  
ルース・エインズワース 作  
石井 桃子 訳  
酒井 信義 画  
福音館書店 2002年 Eチ  
31P 20×27cm 800円



ひとりぼっちのちいさなろばは、クリスマスプレゼントに友達に欲しいと願う。クリスマスイブの夜、サンタクロースの手伝いをしたろばの願いを聞き届け、サンタクロースはろばに素敵なプレゼントを贈る。赤い表紙が印象的な絵本。静かに進む物語と柔らかいタッチの挿絵が合わさり、作品全体に優しい雰囲気が漂っている。クリスマス前に、親子でじっくり読みたい一冊。




ちびゴリラのちびちび  
ルース・ボーンスタイン さく  
いわた みみ やく  
ほるぷ出版 1978年 Eチ  
32P 22×26cm 1,250円

小さなゴリラのちびちびは、森の動物たちの人気者。でもある日ちびちびが大きくなり始める。どんどん、どんどん大きくなって…。

明るいグリーンを背景に、動物たちが生き生きと描かれる。へびもライオンも、かばも愛きょうがあってかわいい。そして、成長して画面いっぱいになったまっ黒いゴリラ。心楽しくなる絵本。



ちよろりんのすてきなセーター   
降矢 なな さく・え  
福音館書店 1993年 Eチ  
31P 27×20cm 800円

ちびすけとかげのちよろりんは、町で見かけた春の原っぱ色のセーターが欲しくてたまらない。じいちゃんのランプ作りを懸命に手伝って、お金を貯めてようやくセーターを買いに行ったが、それはながーいへびのセーターだった。涙が止まらないちよろりんを見て、びきびきおばさんは……。ユーモラスで大胆な色使い、しかも細やかな部分まで楽しめる絵。『ちよろりんととっけー』もある。



ティッチ

パット・ハッチンス さく・え

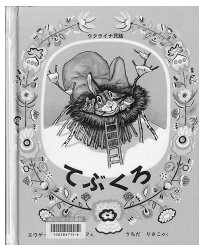
いしい ももこ やく

福音館書店 1975年 Eテ

32P 26×21cm 1,100円

兄さんのピートと姉さんのメアリに比べて、末っ子のティッチは、いつも小さいもので我慢させられている。自転車のかわりに三輪車、凧のかわりに小さなかざぐるまというふうな。ところが、ティッチだけが持っていた小さな種を土にまいたら……。

絵も文も単純明快、結末の大逆転が末っ子のコンプレックスを吹き飛ばす。



てぶくろ

エウゲーニー・M・ラチョフ え

うちだ りさこ やく

福音館書店 1965年 Eテ

15P 28×23cm 1,000円



森の中で、おじいさんが落としていったてぶくろに、ねずみが入り込んだ。そこへ、かえるがやって来て「わたしも入れて」と入り込む。その後から、うさぎ、きつね、おおかみと次々やって来ては、みんなてぶくろの中に入って行く。不思議なてぶくろに、子どもたちは思わず目をみはる。



### どうぶつ

ブライアン・ワイルドスミス さく・え  
わたなべ しげお やく  
らくだ出版 1985年 Eド  
32P 23×29cm 1,360円

まず、描かれた動物の色の華やかさに目を奪われる。今にも絵本から飛び出しそうな「はねとヒヨウ」、いかにもずるそうな「こそこそキツネ」、やさしい目の「ゾウの一族」など18種類の動物たちには、本物の動物を見る以上の実在感があり、想像力をかきたてられる。また、その筆致の大胆さと白の空間構成は幼児の美に対する目を育てる。他に『とり』、『うさぎとかめ』など作品多数。



### どこへいった？

マーガレット・ワイズ・ブラウン さく  
バーバラ・クーニー え  
うちだ りさこ やく  
童話館出版 1996年 Eド  
32P 18×16cm 1,000円

ねこ、りす、さかな、ことり、いろいろな動物たちにそれぞれ、「どこへいった？」と尋ねる。その繰り返しが心地良く、リズムカルに耳に残る。詩的な文章からは、野山や空、海へと広がる自由でのびのびとした動物たちの世界を想像し楽しめる。白黒の中にやわらかな朱色で描かれた絵は印象的。幼い子どもが自分で持ってページをめくるのにぴったりなサイズの絵本。



どろんここぶた  
アーノルド・ローベル 作  
岸田 衿子 訳  
文化出版局 1971年 Eド  
64P 22×15cm 950円

お百姓さんに飼われているこぶたは、どろんこが大好き。ある時、飼い主のおばさんに大掃除されて、どろんこがなくなってしまった。怒ったこぶたは家出し、どろんこを見つけるのだが……。

こぶたの冒険や失敗がユーモラスに描かれ、幼い読者をわくわくさせ、共感を呼ぶ。本の大きさも持ちやすく手頃。



どろんこハリ  
ジーン・ジオン ぶん  
マーガレット・ブレイ・グレアム え  
わたなべ しげお やく  
福音館書店 1964年 Eド  
32P 31×22cm 1,200円

ハリは、おふろが大嫌いな、黒いぶちのある白い犬。ある日、おふろのブラシを裏庭にうめ、逃げだして遊びほうけ、真っ黒に汚れて帰る。家の人、よその犬だと知らぬ顔。さあ、大変！

ハリーの珍妙な努力に「頑張って」と声援を送りたくなる。ユーモラスな絵も楽しい。



とん ことり  
筒井 頼子 さく  
林 明子 え  
福音館書店 1989年 Eト  
31P 20×27cm 800円

かなえが山の見える町に引っ越して来た日、「とんことり」と玄関で小さな音がして、郵便受けの下にすみれの花束が。次の日にはたんぼぼ、次の日は大きな字の手紙。4日目、折紙の人形を投げ込んで立ち去ろうとした女の子は、かなえに呼び止められると、とても小さな声で言った。「あそびにいこう」二人は友達になって自転車で野原へ。見開きいっぱいの野原に、友達を得た二人の喜びがあふれる。



どんくまさんのおてつだい  
柿本 幸造 絵  
蔵富 千鶴子 文  
至光社 1973年 Eド  
24P 26×26cm 1,068円

山にもいつか春が来て、どんくまさんの心はずむ。でも一人じゃなんだかつまらない。ふわふわ夜風にさそわれて、散歩に行き出会ったのは、うさぎのどろぼう三人組。引っ越し屋さんか修繕屋さんと思ったどんくまさんは、それならばくにまかせとけ。一晩のうちにオルガンもたんすもピッカピカ。うさぎさんの誕生パーティーに招待されたどんくまさんは……。どんくまさんシリーズの一冊。





どんなにきみがすきだかあててごらん  
サム・マクブラットニィ ぶん  
アニタ・ジェラーム え  
小川 仁央 やく  
評論社 1995年 Eド  
32P 26×23cm 1,300円

小さな茶色のこうさぎは、でかうさぎに聞いてみたくなった。「どんなにきみがすきだかあててごらん」腕をのぼしたり、背伸びしたり、逆立ちしたり、ありったけの大きさを示そうとするけれど、でかうさぎの愛情の大きさにはかなわない。2匹のうさぎの関係は、読者によって色々が変わる。やわらかい色調の絵で、幼い子から大人まで楽しめる。



なぞなぞえほん 1 のまき  
中川 李枝子 さく  
山脇 百合子 え  
福音館書店 1988年 Eナ  
56P 13×13cm 638円

「一ねんにひとつだけもらうもの、だれかにあげるわけにはいなくて、かえすこともできません」こんな問題が27問載っている。子どもが大好きななぞなぞ。言葉だけで考えても楽しいし、難しかったら、絵がヒントになっている。大人も子どもも、一人でも大勢でも楽しめる。続編に『2のまき』、『3のまき』がある。上の答えは「とし」。当たりましたか？



ねえどっちがすき？

安江 リエ ぶん

降矢 奈々 え

福音館書店 2003年 Eネ

23P 22×21cm 800円

「ねえどっちがすき?」、仲良しの男の子ときつね君は好きなものがいっぱい。「びっくりめだまやきとほっこりたまごやき」、「しゃくしゃくリングとにとにとバナナ」など、男の子ときつね君と一緒に好きなものを選ぶ嬉しさを感じられる。どっちにしようか迷ってしまうものばかり。生き生きとした言葉の楽しさと好きなものを選ぶ楽しさを感じられる絵本。



ねこが いっぱい

グレース・スカール さく

やぶき みちこ やく

福音館書店 1986年 Eネ

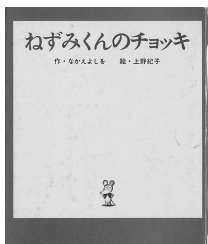
20P 19×19cm 700円

「おおきいねことちいさいねこ」、「しましまねことぼちぼちねこ・・・、小さな本の見開きに簡潔な文と、一匹ずつ白地に中間色ですっきり描かれたねこたちは、みんなユーモラスで、何とも言えない愛嬌がある。最後に登場したねこたちが、全員勢揃いして「にゃーお」でおしまい。赤ちゃんから楽しめそう。



ねこのジンジャー  
シャーロット・ヴォーク 作  
小島 希里 訳  
偕成社 1997年 Eネ  
33P 25×28cm 1,400円

ねこのジンジャーのお気に入り、優しいテレサのだったこと、いごち満点のかごの中。ところがある日、子ねこがやってきた。突然ジンジャーの静かな時間は、いたずらな子ねこのためにだいなしに。ついに、ジンジャーは家出をしてしまった。さあ、ジンジャーと子ねこは仲良く遊べるようになるのかな？おっとりねこのジンジャーと子ねこの表情が、落ち着いた色調で楽しく描かれている。



ねずみくんのチョコッキ  
なかえ よしを 作  
上野 紀子 絵  
ポプラ社 1974年 Eネ  
31P 25×22cm 1,000円

ねずみくんのチョコッキを、あひるくんやさるくんやぞうくんが着ていったら……。

動物たちを単彩で、中心となるチョコッキを赤で描くことにより、動物たちの表情、特に心理的描写とチョコッキの運命を見事に演出している。会話も単純で効果的。表題紙と終面に充分注目して下さい。作者の細やかな心配りがうかがえる。



ねずみのすもう

神沢 利子 文

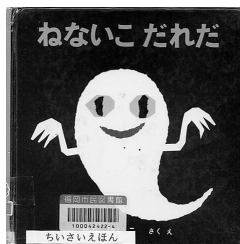
赤羽 末吉 絵

偕成社 1983年 Eネ

31P 26×21cm 1,400円



「でんかしよ、でんかしよ」のかわいい掛け声は、貧乏なおじいさんちのひよろひよろねずみと、長者どんでっぷり太ったねずみが相撲をとっているところだった。貧乏なおじいさんちのねずみは負けてばかり、そこで……。おなじみの昔ばなし。赤いふんどしをつけたねずみたちの真剣さ、おじいさん、おばあさんの心遣いが伝わってくる。



ねないこだれだ

せな けいこ さく・え

福音館書店 1969年 Eネ

23P 17×17cm 600円

幼い子どもたちの大好きな絵本。母と子の日常から生まれた絵本で、短いけれど、リズムのある文と形や色がはっきりした貼り絵で楽しい。子どもの手を持ちやすい大きさなので、親しみがもてる。子どもにむける母親の愛情と願いのこめられた、ビギナーズブックの一冊。



はじめてのおつかい

筒井 頼子 さく

林 明子 え

福音館書店 1977年 E八

31P 20×27cm 800円

ある日ママが言った。「みいちゃん、ひとりでおつかいできるかしら」5歳になったみいちゃんは、お金を握りしめ、途中びゅーと走る自転車に驚いたり、すべて転んだりしながらお使いに行く。

初めてお母さんにお使いを頼まれた、嬉しさと緊張に胸を高鳴らせ、一生懸命責任を果たそうとする姿が、絵と文で迫ってくる。



ばしん! ばん! どかん!

ピーター・スピア ぶん・え

わたなべ しげお やく

童話館出版 2004年 Eバ

40P 21×27cm 1,500円

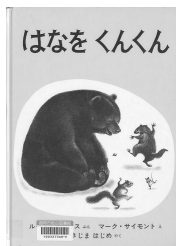
「ばしん! ばん! どかん!」勇ましい題名のように、さまざまな音があふれている楽しい絵本。料理をする音や自然界の音、それらを言葉で表すとこんなにも表情豊かであることに驚かされ、音を言葉に表すおもしろさにも気づかされる。音の大きさや動きによって、文字の大きさや並びが工夫されていて、リズムに合わせて読みたくなる。読んだ後、親子で音を言葉にして遊ぶのも楽しい。



葉っぱのあかちゃん  
平野 隆久 写真・文  
岩崎書店 2008年 47ヒ  
31P 27×23cm 1,400円



樹木は、春になると冬芽を守ってきた堅い殻がはがれて若芽が生まれる。葉っぱのあかちゃんのような若芽は、色が美しいもの、人の姿や顔あるいは動物に見えるものなど、いろいろな表情をしている。春の光を浴びて、日ごとに成長していく様子が美しい写真で紹介され、添えられた語りかけるような文章は、植物を身近に感じる架け橋となっている。巻末にはすべての木の解説も掲載されている。



はなをくんくん  
ルース・クラウス ぶん  
マーク・シーモント え  
きじま はじめ やく  
福音館書店 1967年 E八  
31P 31×22cm 1,000円



雪におおわれた山や森に眠っていた動物たちは目をさまし、みんな、はなをくんくん走り出す。冬の野原に動物たちの大行進。どこに行くのかな？

モノクロームの世界。最後に見つける一本の黄色い花は、春を象徴して実に感動的。序幕から終幕まで、見事な盛り上がりをもせ、読者を魅了する。



パパがやいたアップルパイ  
ローレン・トンプソン 文  
ジョナサン・ビーン 絵  
谷川 俊太郎 訳  
ほるぶ出版 2008年 Eパ  
40P 24×24cm 1,500円

パパが焼いたアップルパイには、りんごが入っている。りんごは木に実り、木には立派な根っこがある。根を潤すのは雨、雨を降らせるのは雲……。ひとつのアップルパイを起点に、りんごを育む壮大な自然について、どんどん文章を積み重ねていく、谷川俊太郎訳の言葉遊びの絵本。最後は、命でいっぱいの地球まで画面が広がり、生き生きとした大地や動物たちが描かれている。



はらぺこあおむし  
エリック・カール さく  
もり ひさし やく  
偕成社 改訂 1989年 Eハ  
25P 22×31cm 1,200円

ちっちゃな卵から生まれたあおむしは、おなかがすいてぺこぺこ。月曜から土曜まで、食べて食べて食べまくり、さなぎから蝶になるというお話。あおむしが食べたものには、穴があいたしかけがある。

カラフルで迫力ある絵は、生命力のすごさを見事にうたいあげ、最後に誕生した蝶は、思わず息をのむほど美しい。



はろるとむらさきのくれよん  
クロケット・ジョンソン 作  
岸田 衿子 訳  
文化出版局 1972年 E八  
64P 22×15cm 854円

小さな男の子、はろるとは、月夜の散歩がしたくなり、むらさき色のくれよんで月をかき、道をつくって出かけた。はろるとの描き出す楽しい世界と冒険は、読み手をぐいぐい引き込んでいく。

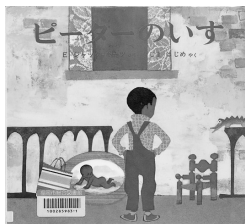
白い画面にかかれたパジャマ姿のはろるとは、無彩色に近く、彼の描くむらさき色の線画が効果的。



ハンダのびっくりプレゼント  
アイリーン・ブラウン 作  
福本 友美子 訳  
光村教育図書 2006年 E八  
25P 23×27cm 1,400円

ハンダは友達にプレゼントする果物を入れた籠を頭にのせて持っていく。その途中、さまざまな動物たちが出てきて果物をとっていく。ハンダはそのことに気付かないまま、どんどん歩いて行けど、結末は？ アフリカの果物や動物たちが色あざやかに生き生きと描かれている。大人も子どもも楽しめる。





ピーターのいす  
エズラ＝ジャック＝キーツ 作・画  
木島 始 訳  
偕成社 改訂 1977年 Eピ  
32P 21×24cm 1,200円

ピーターが積木で遊んでいると、積木が、がしゃんと大きな音で崩れた。「しいーっ、しずかにあそんでね」、お母さんの声。妹のスージーの部屋をのぞくと、お母さんがピンクに塗り替えられたピーターの揺りかごにスージーを寝かしつけている。

下の子が生まれた時の上の子の気持ちをあたたかく描いている。



ピッツァぼうや  
ウィリアム・スタイク 作  
木坂 涼 訳  
らんか社 2000年 Eピ  
32P 24×21cm 1,500円

雨で友だちと遊びに行けず、ご機嫌なめのピート。そんなピートにお父さんが、「ピートでピッツァをつくったらたのしくなるかもしれないぞ。」と言い出した。さて、どんなピッツァができあがるのか。生地に見立てられたピートがお父さんの手でピッツァになっていく工程が、ユニークでおもしろい。お母さんも加わってピッツァ作りは大盛り上がり。表紙のピートの笑顔も魅力的である。



ひとまねこざる

H.A. レイ 文、絵

光吉 夏弥 訳

岩波書店 1983年 E七

47P 28×22cm 1,300円

ひとまねこざるとは、動物園に住んでいる、知りたがりやのジョージのこと。ある日、番人がうっかりしているすきに、鍵を盗み動物園を抜け出す。広い街で、ジョージが次々に引き起こす珍事件は、抱腹絶倒のおかしさ。

カラフルで、ユーモラスな絵も笑いを誘う。



ひまわり

和歌山 静子 作

福音館書店 2006年 E七

24P 22×21cm 800円



種から育ったひまわりの一生が、はっきりとした線でおおらかに描かれている。言葉の調子もりズミカルで心地よい。

雨や風に負けず「どんどこ」成長し、伸び続けていくひまわり。花をつけて、見開きを縦に使った画面いっぱい「どん」と広がる様子をぜひ楽しんでほしい。

親子で声に出して読みたい絵本である。



100まんびきのねこ  
ワンダ・ガアグ ぶん え  
いしい ももこ やく  
福音館書店 1961年 Eヒ  
31P 20×27cm 1,000円

おじいさんとおばあさんが、ねこを飼うことになり、ねこを探しに出かけたおじいさんに、一兆匹のねこが着いて来る。困った二人は、一番きれいなねこを、ねこたちに決めさせようとしたが・・・さあ、大変！

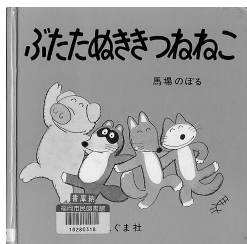
何度も繰り返されるリズムカルな快い言葉とモノトーンの躍動感あふれる絵がマッチして独特な作品世界へと子どもたちを誘う。



ふしぎなたけのこ  
松野 正子 さく  
瀬川 康男 え  
福音館書店 1966年 Eフ  
27P 20×27cm 800円



山奥の村。たろが、たけのこを掘っていると、そばのたけのこが、たろを乗せてぐんぐんぐんぐん伸びていった。仰天した村人たちがたけのこを切り倒し、それを伝えて行く・・・。村人たちは海というものをはじめて見た。たけのこの勢いよく伸びる様子や、たろと村人たちの仰天ぶりが、表情豊かに生き生きと描かれている。



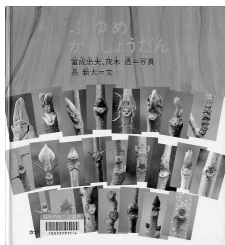
ぶたたぬきつねねこ

馬場 のぼる 著

こぐま社 1978年 Eブ

40P 19×19cm 1,000円

子どもたちが大好きな「しりとり遊び」の絵本。明るくユーモラスな絵を見て、「次は何だろう？」と子どもと一緒に、あれこれ言葉を考えながらページをめくると楽しい。



ふゆめがっしょうだん

富成 忠夫 写真

茂木 透 写真

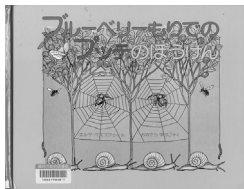
長 新太 文

福音館書店 1990年 Eフ

27P 26×24cm 900円



ページをめくる度に出てくる、かわいい顔、おとぼけ顔、ユニークな顔、顔、顔。なんとそれは、木の芽の冬姿を拡大して写したものの。木の芽たちの織りなすハーモニーがとても素敵だ。この本を手にしたら、きっと、外に出かけて自分の目で確かめたくなるだろう。今まで見過ごしていた身近な場所で見つけられる。寒い冬でも、もう春の準備をしている自然の力に感動する。



ブルーベリーもりでのプッテのぼうけん  
エルサ・ベスコフ さく・え  
おのでら ゆりこ やく  
福音館書店 新版 2001年 Eプ  
36P 25×32cm 1,300円

森へブルーベリーとこけもも摘みに行ったプッテは、小人のおじいさんに出会い、不思議な国へ案内される。青いしみだらけの小さな息子たち、こざっぱりしたこけももかあさんと5人の娘、もみじのヨット、ねずみの馬車……。100年以上前に出版され、今も色あせることなく読み継がれるスウェーデンの美しい絵本である。



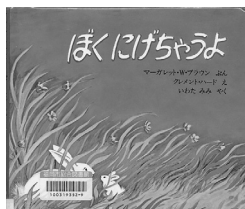
ふわふわくんとアルフレッド  
ドロシー・マリノ 文・絵  
石井 桃子 訳  
岩波書店 1977年 Eフ  
42P 21×17cm 800円

アルフレッドは、おもちゃのくまのふわふわくんと、赤ん坊の時から、何をするにもいつも一緒だった。ところがトラのおもちゃが届いた日から、アルフレッドはふわふわくんには見向きもしない。そこで、ある日ふわふわくんは動き出し、高い木の枝に登ってしまって……。アルフレッドとふわふわくんの関係がほのぼのとしていて、シンプルな絵もいい。



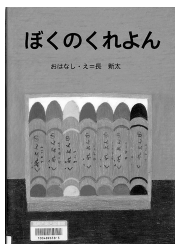
ぼく、お月さまとはなしたよ  
フランク・アッシュ エとぶん  
山口 文生 やく  
評論社 1985年 Eポ  
32P 21×21cm 1,200円

クマくんは山の頂上に登り、お月さまに大声で呼びかける。「ぼくのとんじょう日はあしたです！」クマくんの声が山にこだまして返ってくる。月に向かって語りかけるクマくんの姿はほほえましい。青い夜の空に黄色いお月さまが美しく、ほのぼのとした、あたたかい余韻を心に残す絵本。



ぼくにげちゃうよ  
マーガレット・W・ブラウン ぶん  
クレメント・ハード え  
いわた みみ やく  
ほるぷ出版 1976年 Eポ  
40P 18×22cm 1,000円

家を出てどこかへ行ってみたくなった子うさぎが、母さんうさぎに言った。「ぼくにげちゃうよ」魚になって、山の岩になって逃げた子うさぎ。漁師になって、登山家になって、追いかけるお母さん。言葉のやりとりが空想をどんどん広げ、白黒とカラーの絵が交互に現れて、スピード感のある話の展開がおもしろい。



ぼくのくれよん  
長 新太 おはなし・え  
講談社 1993年 Eポ  
32P 31×22cm 1,400円

ぞうさんの好きな大きなくれよんでお絵描き。「びゅうー」でっかい青い丸、何だろう。お池かな？赤いくれよんで「びゅうー」、「火事だ逃げろー」。黄色いくれよんで「びゅうー」何かな？

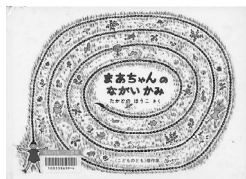
くれよんが描き出す世界に、子ども達の豊かな感性も刺激を受ける。赤、青、黄の三原色を上手にを使って、イメージの広がりを工夫している。



ぼとんぼとはなんのおと  
神沢 利子 さく  
平山 英三 え  
福音館書店 1985年 Eポ  
31P 27×20cm 800円



「冬ごもりの穴の中、くまの母さん双子のぼうやを生みました。おっぱいので、くうくうねむって、ぼうやは大きくなりました。ある日、ぼうやはたずねます。かーんかーんってなんの音？」春を待つくまの親子の様子が、繊細であたたかい絵と共に、ほのぼのと心に残る。



まあちゃんのながいかみ  
たかどの ほうこ さく  
福音館書店 1995年 Eマ  
27P 20×27cm 800円

髪が長くなったら魚だって釣れるし、牧場の牛だって捕まえられる。短いおかつば頭のまあちゃんの想像は、どんどん広がってゆく。そしてとうとう、友達もうっとりするような素敵なことが……。

長い髪にあこがれる女の子の、夢とユーモアにあふれるおはなし。現実よりも色鮮やかな想像の世界を楽しんで下さい。

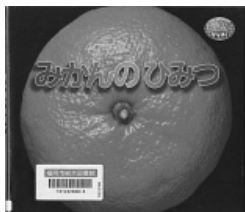


まゆとおに  
富安 陽子 文  
降矢 なな 絵  
福音館書店 2004年 Eマ  
30P 27×20cm 800円

まゆは元気な女の子。ある日、山道で鬼と出会ったが、大きな怖そうな鬼を見ても、まゆは全然驚かない。鬼はまゆの怪力に驚いたり、やけどをして泣いたり、まゆに背負われて山道を運ばれたり……。ページをめくるたびに子どもたちの歓声があがりそうな絵本である。

シリーズに『まゆとりゅう』、『まゆとおおきなケーキ』、『まゆとうりんこ』がある。





### みかんのひみつ

鈴木 伸一 監修

岩間 史朗 写真撮影

ひさかたチャイルド 2007年 62ミ

31P 21×24cm 1,000円

いろいろな写真で切り取られたみかんの姿。あまりにも身近な果物であるが、ページをめくれば改めてその姿に驚く。圧巻は、ふくろのつぶを取り出して一粒ずつ並べた見開きのページ。子どもたちの歓声があがるのは間違いなし。

『しぜんにタッチ！シリーズ』は、どれも身近なテーマをとりあげていて、好奇心を大いにくすぐる。



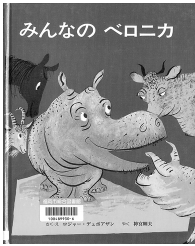
### みんなうんち

五味 太郎 さく

福音館書店 1981年 Eミ

27P 25×22cm 900円

あら、あら、うんちが絵本になるのかしら？ 誰だってそう思うでしょう。ところが、動物により違う、うんちの形、出る場所、なぜうんちをするか、ユーモラスにわからせてしまうのだからすごい。最後、キリンから人間まで、一列にお尻を並べてのうんちの図は圧巻。色彩のコントラストが美しい。



みんなのペロニカ  
ロジャー・デュボアザン さく・え  
神宮 輝夫 やく  
童話館出版 1997年 Eミ  
32P 26×21cm 1,300円

かばのペロニカが新しい農場にやってきたとき、はじめは他の動物たちから相手にされない。新しい友達に出会ったとき、本当は気になってしかたがないのに、素直に受け入れられない気持ちを、心優しい作者がユーモアたっぷりに描いている。ペロニカは、最後には「みんなのペロニカ」になる。

幅広い年齢の子どもに楽しんでもらえるだろう。



めっきらもっきらどおんどん  
長谷川 摂子 作  
ふりや なな 画  
福音館書店 1990年 Eメ  
31P 20×27cm 800円



ある夏の日。一人でいたかんたは、でたらめな歌を歌う。穴に吸い込まれて着いた所は、夜の国。おかしな三人組がやって来て、かんに「遊ぼう」とせがむ。ももんがごっこ、おたからこうかん、なわとび、さんざん遊んだ後で心細くなったかんたが口にした言葉は・・・。

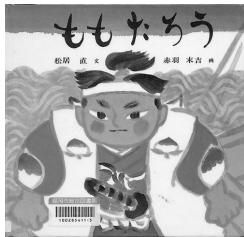
リズムカルで楽しい言葉と魅力的な登場人物。透明感のある美しい絵で不思議な世界を楽しめる。



ものぐさトミー  
ペーン・デュボア 文・絵  
松岡 享子 訳  
岩波書店 1977年 Eモ  
44P 21×17cm 880円

トミーは、とにかく大のものぐさで、起床から始まって、入浴、着がえ、食事とすべてを機械にやってもらっている。唯一、自分ですることと言えば、階段をのぼってベッドに戻るだけ。ところが嵐がやってきて電線が切れたことから、トミーは天地がひっくり返るほどの大災難にあう。

ただおもしろいというだけでなく、ちょっと皮肉も入った絵本。



ももたろう  
まつい ただし ぶん  
あかば すえきち え  
福音館書店 1965年 Eモ  
40P 21×21cm 1,100円



代表的な日本昔話の桃太郎を、本書はとてもしずみ感のある文章で表現している。例えば「川上から桃が、つんぶく かんぶく……うーまいももっこ こっちゃんこい、にいがいももっこ あっちゃんけ…」など。心地よい言葉に子どもも体をゆすって喜ぶ。絵には画家独自の素朴さや躍動感があり、物語を一層ひきたてている。また、原話や昔話の本質を大切にしており、貴重な一冊である。



もりのなか

マリー・ホール・エッツ ぶん・え

まさき るりこ やく

福音館書店 1963年 Eモ

39P 19×27cm 1,000円

ぼくが、ひとり森へ散歩に出かけるとライオンやぞう、くまなどの動物たちが次々に現れて、ぼくに着いてきた。ぼくたちは、森の中で遊んだりして楽しい時間を過ごす。

白と黒だけで描かれた絵と簡潔な文章に、さまざまな空想の世界へと引き込まれる絵本。



もりのひなまつり

こいで やすこ さく

福音館書店 2000年 Eモ

31P 20×27cm 800円



森の野ねずみ子ども会から「ひな祭りにおひなさまを連れて来て下さい」と頼まれたねずみばあさんは、おひなさまと一緒に森へ向かう。森には動物たちと一緒に手をつなぎ、歌って踊って、盛大にひな祭りを祝った。ところが、家に帰って、ねずみばあさんが、おひなさまたちの姿を見て、びっくり仰天。

おひなさまや動物たちの豊かな表情、美しい衣装や森の様子が柔らかい筆致で色鮮やかに生き生きと描かれている。



やさいのおなか  
きうち かつ さく・え  
福音館書店 1997年 Eヤ  
47P 19×19cm 1,000円

ページを開くと「これ なあに」の一文と、白黒で描かれた野菜の切り口。一瞬、考えてから次のページを開くと、今度は色のついた切り口と野菜の名前が。

白黒で描かれた“やさいのおなか”は大人が見てもちょっと難問。子どもたちともユニークなやりとりが楽しめる。野菜の色も目に美しい絵本である。



ゆかいなかえる  
ジュリエット・ケペシユ ぶん・え  
いしい ももこ やく  
福音館書店 1964年 Eユ  
32P 16×24cm 900円

魚が食べそこなった4つの卵から、おたまじゃくしがかえり、蛙になる。泳いだり、もぐったり、かたつむりのかくしっこをしたり、さぎやかめに捕まりそうになったりしながら、愉快に夏じゅうを過ごし、冬になると土の中で春まで眠るというおはなし。

白、黒、緑色を使い、動きのある絵と文がよくあって、楽しい絵本。



ゆきだるま

レイモンド・ブリッグズ 作

評論社 1978年 Eユ

32P 31×22cm 1,300円



昼間、自分が作った雪だるまと友達になった少年。喜んだ少年は両親も寝しずまった家の中を案内したり、一緒に食事をしたりして楽しく遊ぶ。その後、雪だるまは少年を雪の降る戸外への空中散歩に連れていってくれる。

文字なしのコマ絵形式。淡い色彩のパステル画で、全体に不思議な詩情がただよう。少し大きい子向けの絵本。



ラチとらいおん

マレーク・ペロニカ ぶん・え

とくなが やすもと やく

福音館書店 1965年 Eラ

44P 16×23cm 1,100円

ラチは世界中で一番の弱虫。犬、暗い部屋、友達さえもこわくて仲間はずれにされ、いつも泣いてばかり。ある時、小さなライオンがやってきて、ラチを勇敢な子どもにしてくれる。

元気そうな子どもも似たような経験があるからか、何度も読んでとせがむ。子どもの心理をたくみにとらえた絵本。漫画風な絵がストーリーにあっている。



ロージーのおさんぼ  
パット＝ハッチンス さく  
わたなべ しげお やく  
偕成社 1975年 Eロ  
30P 21×26cm 1,000円

徹頭徹尾、前進あるのみ。わき目もふらずに広い農場を一巡するめんどりロージーと、それにおそいかかろうとするたびに、池に落ちたり干し草の山に埋まったり……失敗を繰り返すどじなきつねの話。

ユーモラスに図案化された明るい色彩の絵と、簡潔な文章とのバランスが絶妙。健康なバイタリティーが画面にあふれている。



わゴムはどのくらい伸びるかしら？  
マイク・サーラー ぶん  
ジェリー・ジョイナー え  
きしだ えりこ やく  
ほるぶ出版 改訂 2000年 Eワ  
32P 19×24cm 1,200円

ある日、わゴムがどれくらい伸びるか試してみたくなかったぼうやは、わゴムをベッドのわくにかけて、わゴムを引っ張りながら部屋を出てみた。いったいわゴムは、どれくらい伸びるかしら。自転車に乗ってみた、バスや飛行機や船やラクダに乗ってみた。ぼうやとわゴムはどうなったかって？ それはね……。無邪気な子どもの想像力が、ダイナミックに描かれている。



わたしとあそんで  
マリー・ホール・エッツ ぶん・え  
よだ じゅんいち やく  
福音館書店 1968年 Eワ  
29P 27×20cm 1,100円

幼い女の子がひとり朝つゆの光る原っぱに遊びに行き、ぼったを見つて「あそびましょ」と声をかけるが、飛んでいってしまう。かえる、かめ、りす……と次々に声をかけるが逃げていしまい、ひとり静かに腰かけていると、さっきの動物たちがもどってくる。

淡い色の優しくあたたかい絵。女の子の幸せな気持ち、こちらにも伝わってくる。



わたしのワンピース  
にしまき かやこ えとぶん  
こぐま社 1969年 Eワ  
43P 20×22cm 1,100円

私が作った真っ白なワンピース。花畑へ行けば、お花模様に……。ワンピースの模様が変わるごとに、生き生きとした表情になる私。子どもが、お気に入りの洋服を着た満足な様子と重なって、親しみやすい雰囲気を作りだしている。

絵は、単純で柔らかな線とさわやかな色彩とで描かれている。





わにわにのおふろ

小風 さち ぶん

山口 マオ え

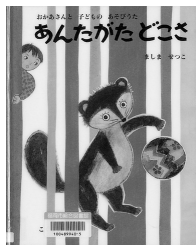
福音館書店 2004年 Eワ

24P 22×21cm 800円

わにのわにわには、おふろが大好き。たっぷりとはったお湯にじょろろーんとして、おもちゃで遊び、上機嫌で歌を歌い、“めいっばい”おふろを楽しんでいる。わにの絵とユーモラスな表現がおもしろく、読んでいると“ほっこり”した気分になってくる絵本である。



# 赤ちゃん絵本



あんたがたどこさ  
ましま せつこ 絵  
こぐま社 1996年 Eア  
32P 25×19cm 1,200円

おなじみの「あんたがたどこさ」「おてらのおしょうさん」など15曲のわらべうたが収められている。優しく美しい絵とともに、手あそびのしかたも紹介されていたり、楽譜も付いているので、今すぐ親子で楽しむことができる。手をつなぎ、声をかけ、顔を見合わせて遊ぶことの大切さを実感できる絵本。

また、姉妹編として『あがりめさがりめ』もある。



いないいないばあ  
松谷 みよ子 文  
瀬川 康男 絵  
童心社 改版 1981年 Eイ  
20P 21×19cm 700円

親子の最初の遊びともいえる、いないいないばあの絵本。子どもに初めて読み聞かせる絵本として適切。最後にのんちゃんがないいないばあをする場面で、絵本を見ている子どもが真似をしたら、本を離れていないいないばあの遊びをしてみよう。

シリーズ『松谷みよ子あかちゃんの本』には、『のせてのせて』もある。



おつきさまこんばんは

林 明子 さく

福音館書店 1986年 Eオ  
20P 18×19cm 700円

濃い青を背景に、家と二匹のねこのシルエット。その家の後ろから、まんまるいおつきさまがゆっくり昇ってくる。黄色く光るおつきさまは優しい顔をしているが、流れてきた雲に隠されそうになって……。起承転結のあるお話が、少ない色数・簡潔な言葉で語られており、赤ちゃんから幼児まで長く親しめる絵本。裏表紙のおつきさまはユーモラスな表情で、読後も楽しい気持ちにさせてくれる。



おひさまあはは

前川 かずお 作・絵

こぐま社 1989年 Eオ  
24P 20×22cm 800円

おひさまがあはは、ことりがあはは、おさかながあはは。どのページを見ても、みんなが笑っている。そして最後は、不機嫌そうだった男の子も、お母さんと一緒にあははと笑い出す。

絵本がはじめての小さな子どもにもわかりやすい、少し小さくてかわいい絵本。



がたんごとんがたんごとん

安西 水丸 さく

福音館書店 1987年 Eガ

40P 19×19cm 700円

汽車が草地を走っている。この汽車に、ほ乳びん、コップ、スプーン、りんご、バナナ、ねこ、ねずみが呼び止めては乗り込み、汽車は満員に。最後には、読者の微笑みを誘う終点がおとずれる。

汽車が進む「がたんごとん」という音と、「のせてくださーい」という呼びかけの繰り返しが心地良い。はっきりとした形の絵の魅力とともに、言葉の響きの楽しさを味わえる絵本である。



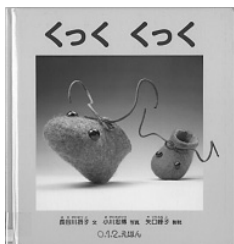
くだもの

平山 和子 さく

福音館書店 1981年 Eク

23P 22×21cm 800円

画面いっぱいすいかはカットされ、大きな皿にのせてフォークを添えて「さあ どうぞ」。なしやりんごは皮をむかれ、一切れをフォークに刺して「さあ どうぞ」。いちごは洗って器に入れて「さあ どうぞ」。子どもに身近な果物が、次のページでは食べるばかりになって差し出される。精緻な果物の描写と、シンプルな言葉やくり返しの展開で、赤ちゃんから楽しめる絵本。



くっくくっく  
長谷川 撰子 文  
小川 忠博 写真  
福音館書店 2005年 Eク  
20P 20×20cm 700円

フェルトでできた赤いくつと青いくつ。みんながそろって踊りだす、楽しい写真絵本。「おっぺけひゃらりこ まんまんもお」といった愉快な歌やかけ声をリズムカルに読みたい。また、画面いっぱいには歩いたり、跳んだり、跳ねたりするくつたちの動きは、ダイナミックで生き生きした表情も見逃せない。



くっついた  
三浦 太郎 作・絵  
こぐま社 2005年 Eク  
23P 18×19cm 800円

きんぎょさんときんぎょさんがくっついた。お母さんとわたしがくっついた。お父さんもくっついた。

作者の子育ての中から生まれたというこの絵本は、人と人がふれあう幸せと、我が子への愛情に満ちている。絵も内容もシンプルであたたかく、赤ちゃんから楽しめる。親子でふれあいながら読んでほしい。



ごぶごぶごぼごぼ

駒形 克己 さく

福音館書店 1999年 Eゴ  
20P 20×20cm 700円

鮮やかな色を背景にさまざまな色と大きさのまるが、擬音語に合わせて自由に描かれている。まるのうちいくつかは穴あきで表現されて、前後のページの色とつながっている。

リズムカルな音と鮮やかな色の世界は、創造力を膨らませる。読むたびに感じ方が変わり、新鮮な気持ちで読むことができる。子どもと一緒に、この時間をゆっくり味わってほしい。



じゃあじゃあびりびり

まつい のりこ 作・絵

偕成社 改訂 2001年 Eジ  
22P 14×14cm 600円

「じどうしゃ ぶーぶーぶーぶー」、「いぬ わんわんわんわん」、見開き1ページにひとつの絵とその擬音が描かれたリズムカルな絵本。どれも日常の音なので、赤ちゃんも何度も聞いたことがあるはず。

オノマトペが大好きな赤ちゃんには大人気の絵本。

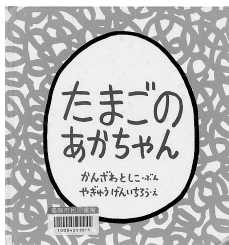




せんべせんべやけた  
こばやし えみこ 案  
ましま せつこ 絵  
こぐま社 2006年 Eセ  
24P 20×22cm 900円

「せんべせんべ やけた」のわらべ歌に合わせて、ままごと遊びをしている女の子。絵に描いたおせんべいやおにぎりを網で焼くまねをして、ぬいぐるみやお母さんに「はい、どうぞ」とごちそうしてあげる。

『わらべうたえほん』シリーズの一冊であり、親子で一緒に歌ったり、ごっこ遊びをしながら楽しんで読むことができる絵本。巻末には楽譜と解説も付いている。



たまごのあかちゃん  
かんざわ としこ ぶん  
やぎゅう げんいちろう え  
福音館書店 1993年 E夕  
23P 22×21cm 800円

「たまごのなかでかくれんぼしてるあかちゃんはだあれ？でおいでよ」と呼びかけられて出てきたのは、にわたりの赤ちゃんやかめの赤ちゃんたち。ぴっぴっぴ、よちよちよち、こんにちわと元気にでてくる。色鮮やかなページにくっきりと白いたまご。何だろうとページをめくると……。赤ちゃんだった頃の話をしながらかんであげてほしい本。



だるまさんが  
かがくい ひろし さく  
ブロンズ新社 2008年 Eダ  
20P 19×18cm 850円

「だるまさんが」ときたら、次は何？「どてっ」、「ぷしゅーっ」、「びろーん」。毎回予想を裏切るだるまさんのユーモラスな動きに、大人も子どもも大笑い。リズムによって何度でも楽しめる。

他にも、シリーズで『だるまさんの』、『だるまさんと』がある。



でてこいでてこい  
はやし あきこ さく  
福音館書店 1998年 Eデ  
20P 20×20cm 700円

「だれかかかれてるよ でてこいでてこい」の言葉に続いて、見開きの片面に、デザインされた色とりどりの葉っぱや家、長方形や円の中から、大小さまざまな動物が、鳴き声や擬音とともに姿を現す。乳幼児対象の、『月刊絵本』の創刊号として製作されたものだけに、言葉の繰り返しと変化、色や形の美しさ、細部の楽しさなど、小さい子どもを喜ばせる要素がたっぷり盛り込まれている。



どうすればいいのかな？  
わたなべ しげお ぶん  
おおとも やすお え  
福音館書店 1980年 Eド  
23P 22×21cm 800円

「シャツをはいたらどうなる？」、「ばんつをきたらどうなる？」、くまくんが間違っ て身につけたものを「どうすればいいのかな？」とページをめくると、「そうそう、シャツはきるもの」と正解を教えてください。親子で見ながら楽しめる絵本。幼い子どもの様子をあたたかく描いた『くまくんの絵本』シリーズの1冊。他に『おふろだ、おふろだ!』、『おとうさんあそぼう』など9冊がある。



どうぶつのおやこ  
藪内 正幸 画  
福音館書店 1966年 Eド  
16P 19×26cm 800円

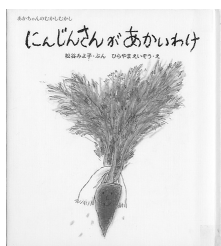
文字のない絵本で、表紙にねこの親子が描かれているが、親子の情愛がにじむような親しめる表情だ。うさぎ、犬、さる、くま、かば、キリン、ライオン、ぞうとそれぞれの動物の特徴が生かされた構図、細やかな描写はまるで、さわると体温が伝わるような感じがする。

幼児にぜひ出会わせたい一冊。



ととけっこうよがあげた  
こばやし えみこ 案  
ましま せつこ 絵  
こぐま社 2005年 Eト  
24P 20×22cm 900円

元気にわとりさんが「ととけっこう、よがあげた」と動物の子どもたちを、次々とくちばしで優しくつついて起こしてまわる。「おはよう」と元気に答える姿はとてもテンポよく、リズムカルである。わらべ歌をもとにしたお話で、楽譜の掲載もある。動物の名前を子どもの名前に置き換えて、朝やお昼寝のお目覚めの時間に優しく起こしてあげるなど、親子で楽しめる絵本である。



にんじんさんがあかいわけ  
松谷 みよ子 ぶん  
ひらやま えいぞう え  
童心社 1989年 E二  
21P 21×19cm 800円

「むかしむかし、だいこんさんがはたけでくうくうってねてるとね……」と、昔話風な語り口で始まる。ごぼうは黒く、にんじんは赤く、だいこんは白いわけを、それぞれ個性を持たせ、なるほど、と子どもたちに思わせる。

タオルをさげてお風呂に出かける絵など、ユーモアがあふれている。言葉も絵も簡潔で、色彩も心地良い。



ばいばい

まつい のりこ 作・絵

偕成社 改訂 2001年 Eバ  
22P 14×14cm 600円

シンプルな絵の動物たちが「こんにちは」と「ばいばい」を繰り返す。動物は白い枠から少しずまして「こんにちは」とのぞき、ページがめくられ「ばいばい」する時は思いっきりの笑顔に変わる。読み手も自然と「こんにちは」と頭を下げ、「ばいばい」と楽しく手を振るだろう。角の丸いボードブック。



ぶーぶーぶー

こかぜ さち ぶん

わきさか かつじ え

福音館書店 2007年 Eブ  
20P 20×20cm 700円

赤、青、黄、緑色の自動車が、「ぶーぶーぶー」、「ぶーぷーぷー」、「ぱっぱっぱっ」とそれぞれ違う音を出して走ってくる。はっきりした色とシンプルな形で描かれた自動車が、次々に現れる様子と同音語のリズムで、視覚的にも聴覚的にも楽しめる絵本。赤ちゃんと、指さしや声掛けなどで、ふれあいながら読むのにぴったり。



まるまる  
中辻 悦子 さく  
福音館書店 1998年 Eマ  
23P 22×21cm 800円

黄色の表紙にあいた二つの赤くてまるい穴が印象的である。めくると鮮やかな色や文字が、まるい穴から登場。単なる「まる」が「まるまるにっこり」など、リズムカルな文章とともにいろいろな意味合いをもつ「まる」に変わっていく。見て、聞いて、触って、感覚が刺激され、想像力がふくらむ絵本である。



もこもこもこ  
谷川 俊太郎 作  
元永 定正 絵  
文研出版 1977年 Eモ  
29P 29×23cm 1,300円

表紙を開くと「しーん」。空と地面が広がっている。ページをめくると「もこ」。地面が少し盛り上がり、さらにページをめくると「もこもこ」、「によき」。地面の盛り上がりはどんどん大きくなって、不思議な世界が広がる。

リズム感のある言葉、言葉のイメージにあった形のおもしろさ、そして鮮やかな色合いがあいまって、子どもたちの想像力をかきたてる。

## 作者等索引

### 〈あ〉

- 青木 久子 ……………26  
赤羽 未吉 ……12. 22. 31. 43. 56. 71  
秋野 不矩 ……………7. 10  
アッシュ, フランク ……………66  
あべ 弘士 ……………21  
アングラー, トミー ……………40  
安西 水丸 ……………82

### 〈い〉

- 石井 桃子 ……4. 7. 19. 29. 30. 41. 46  
47. 49. 63. 65. 73  
石亀 泰郎 ……………6  
イソップ ……………8  
いちかわ かつひろ ……………39  
いまえ よしとも ……………40  
いわた みみ ……………48. 66  
岩間 史朗 ……………69

### 〈う〉

- ウイリアムズ, ガース ……………19  
上野 紀子 ……………55  
ウェバー, アーマ・E. ……………36  
ウェーバー, バーナード ……3  
ヴォーク, シャーロット ……………55  
ウォージントン, セルビ ……………41  
ウォージントン, フィービ ……………41  
内田 莉莎子 ……13. 25. 30. 34. 35  
47. 49. 50

### 〈え〉

- エインズワース, ルース ……30. 47  
エッツ, マリー・ホール ……38. 72. 76

### 〈お〉

- おおとも やすお ……………87  
大村 百合子 ……………8. 28. 43

- おがさわら とよき ……………32  
小川 忠博 ……………83  
小川 仁央 ……………53  
オクセンバリー, ヘレン ……25  
おざわ としお ……………22  
おのでら ゆりこ ……………65

### 〈か〉

- カー, ジュディス ……………15  
ガアグ, ワンダ ……………63  
かがくい ひろし ……………86  
柿本 幸造 ……………52  
加古 里子 ……………24. 44  
ガネット, ルース・クリスマン …11  
ガネット, ルース・スタイルス …11  
カール, エリック ……………59  
ガルドン, ポール ……………8. 16  
川田 健 ……………35  
神沢 利子 ……………56. 67. 85

### 〈き〉

- きうち かつ ……………73  
木坂 涼 ……………61  
岸田 衿子 ……23. 34. 51. 60. 75  
木島 始 ……………58. 61  
きたむら さとし ……………42  
キーツ, エズラ・ジャック ……61  
木下 順二 ……………22  
君島 久子 ……………40

### 〈く〉

- クック, バーナディン ……………7. 20  
くどう なおこ ……………21  
クーニー, バーバラ ……………50  
クラウス, ルース ……………58  
蔵富 千鶴子 ……………52  
グリム ……………11

グレアム, マーガレット・ブロイ…51	スピア, ピーター ……57
〈け〉	スロポドキーナ, エズフィール ……14
ケベシュ, ジュリエット ……73	〈せ〉
〈こ〉	瀬川 康男 ……63.80
こいで やすこ ……72	瀬田 貞二 ……5.11.15.33
小風 さち ……20.77.89	せな けいこ ……56
小島 希里 ……55	センダック, モーリス ……20
小西 英子 ……32	〈そ〉
こばやし えみこ ……85.88	ソーヤー, ルース ……38
駒形 克己 ……84	〈た〉
五味 太郎 ……69	たかどの ほうこ ……68
こみや ゆう ……38	竹下 文子 ……9
〈さ〉	たなべ いすず ……38
さいおんじ さちこ ……29	たにうち つねお ……39
酒井 信義 ……47	谷川 俊太郎 ……16.59.90
さかの 弥生 ……8	たばた せいいち ……14
佐藤 忠良 ……13	〈ち〉
さとう わきこ ……41	チゾン, アネット ……18
サーラー, マイク ……75	長 新太 ……64.67
〈し〉	〈つ〉
ジェラーム, アニタ ……53	つちだ よしはる ……9
ジオン, ジーン ……51	筒井 頼子 ……52.57
清水 崑 ……22	〈て〉
シーモント, マーク ……58	テイラー, タラス ……18
シャーリップ, レミイ ……7	テューダー, ターシャ ……27
シャロー, ジャン ……19	デュボア, ペーン ……71
ジョイナー, ジェリー ……75	デュボアザン, ロジャー ……70
ジョンソン, クロケット ……20.60	テルリコフスカ, マリア ……35
しんごう すすむ ……36	〈と〉
神宮 輝夫 ……20.70	時田 史郎 ……10
〈す〉	得田 之久 ……4
スカル, グレース ……54	とくなが やすもと ……74
鈴木 まもる ……9	ドーハーティ, ジェームズ ……5
スタイグ, ウィリアム ……61	富成 忠夫 ……64



富安 陽子	68
トルストイ	32
トルストイ, A.	13
トンプソン, ローレン	59

〈な〉

なかえ よしを	55
中川 宗弥	4
中川 李枝子	8. 28. 43. 53
中谷 千代子	23. 34
中辻 悦子	90
なかの ひろたか	42
なかの まさたか	42
中村 妙子	27

〈に〉

ニコルソン, ウィリアム	21
西内 ミナミ	28
にしまき かやこ	76

〈は〉

バスネツォフ	32
長谷川 摂子	70. 83
ハッチンス, パット	49. 75
ハード, クレメント	66
バートン, バージニア・リー	6
バーニンガム, ジョン	24
馬場 のぼる	37. 64
林 明子	18. 31. 52. 57. 81. 86
バリー, ロバート	12
晴海 耕平	15

〈ひ〉

ピアンキ	25
平野 隆久	58
平山 英三	17. 67. 88
平山 和子	17. 45. 82
ピーン, ジョナサン	59

〈ふ〉

方 軼羣	40
福本 友美子	60
藤枝 濤子	36
藤田 圭雄	3
ブテンコ, ボフダン	35
ブライト, ロバート	17
ブラウン, アイリーン	60
ブラウン, マーガレット・ワイズ	19. 50. 66
ブラウン, マーシャ	33. 47
フラック, マージョリー	5. 13
ブリッグズ, レイモンド	74
フリーマン, ドン	27. 29
降矢 奈々	48. 54. 68. 70
ふるた たるひ	14
ブルーナ, ディック	46

〈へ〉

ベスコフ, エルサ	65
-----------	----

〈ほ〉

ホーバン, ラッセル	19
ホフマン, フェリクス	11
堀内 誠一	28. 30
ポーンスタイン, ルース	48

〈ま〉

前川 かずお	81
まえざわ あきえ	3
マクブラットニイ, サム	53
まさき るりこ	7. 72
ましま せつこ	80. 85. 88
松居 直	31. 43. 71
まつい のりこ	84. 89
松岡 享子	10. 14. 18. 19. 21. 27. 71
マッキー, デビッド	42

マックロスキー, ロバート	23.38
松谷 みよ子	80.88
松野 正子	63
まど みちお	26
マリノ, ドロシー	29.65
マルシャーク, サムイル	34
マレーク, ベロニカ	74
〈み〉	
三浦 太郎	83
光吉 夏弥	12.13.17.24.62
南塚 直子	26
みやにし たつや	16
〈む〉	
ムア, クレメント	27
むらおか はなこ	5.6
村山 知義	40
〈も〉	
茂木 透	64
元永 定正	90
森 比左志	39.59
〈や〉	
やぎゅう げんいちろう	85
安江 リエ	54
藪内 正幸	35.44.87
やぶき みちこ	54
山口 文生	25.66
山口 マオ	77
やました はるお	18
山田 三郎	25.33
山本 忠敬	37
山脇 百合子	53
〈よ〉	
横内 襄	46
よしだ しんいち	21

よだ じゅんいち	76
〈ら〉	
ラチョフ, エウゲーニー・M	49
〈る〉	
ルッソ, マリサビーナ	26
〈れ〉	
レイ, H. A.	62
レオーニ, レオ	3
レーベデフ, ウラジミル	34
レンスキー, ロイス	45
〈ろ〉	
ローゼン, マイケル	25
ローベル, アーノルド	51
〈わ〉	
ワイルドスミス, ブライアン	50
わかやま けん	39
和歌山 静子	62
わきさか かつじ	89
わきた かず	15
わだ よしおみ	39
渡辺 茂男	11.23.37.45.50 51.57.75.87

## 分野別索引

### 〈春〉

かもさんおとおり	23
たんぼぼ	45
葉っぱのあかちゃん	58
ふしぎなたけのこ	63
もりのひなまつり	72

### 〈夏〉

ガンピーさんのふなあそび	24
ひまわり	62
めっきらもっきらどおんどん	70

### 〈秋〉

おおきなおおきなおいも	12
しずかなおはなし	34
ちょろりんのすてきなセーター	48

### 〈冬〉

おおきいつりーちいさいつりー	12
クリスマスのまえのばん	27
くんちゃんのだいらよこ	29
しんせつなともだち	40
ちいさなろぼ	47
てぶくろ	49
はなをくんくん	58
ふゆめがっしょうだん	64
ほとんぼとんはなんのおと	67
ゆきだるま	74

### 〈日本の昔話〉

いっすんぼうし	7
うらしまたろう	10
かちかちやま	22
かにむかし	22
こぶじいさま	31
だいくとおにろく	43
ねずみのすもう	56
ももたろう	71

### 〈世界の昔話〉

うさぎとかめ	8
おおかみと七ひきのこやぎ	11
おおきなかぶ	13
おだんごばん	15
おとなしいめんどり	16
こども世界の民話 上・下	30
3びきのくま	32
三びきのこぶた	33
三びきのやぎのがらがらどん	33
てぶくろ	49

### 〈読んであげるなら〉

いやいやえん	8
エルマーのぼうけん	11
おいしいれのぼうけん	14
こども世界の民話 上・下	30